バスケットボールプラザ

Basketball Plaza *No.91*

2021 年 9 月

NPO 法人 日本バスケットボール振興会

目　　次

○　令和３年度　理事会と通常総会の開催報告・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・　２

○　東京 2020 オリンピック５人制女子バスケットボール・・・・・・・・・・・・・・・　３
　歴史を変えた女子日本代表

○　東京 2020 オリンピック５人制男子バスケットボール・・・・・・・・・・・・・・１１

○　人物抄　時空を超えての教え　畑 龍雄 さん・・・・・・・・・・・・歴史部・・・１５

○　会員だより
☆ 1964 年東京オリンピックの思い出 ・・・・・・・・・・・・羽佐田　恭正・・・２０

☆ 東京 2020 聖火リレーランナー・・・・・・・・・・・・・・・・川戸　政角・・・２１

☆ 東京 2020 に ボランティア参加して ・・・・・・・・・・・・植野　紀子・・・２２

○　東京 2020 オリンピック 感想等の報告・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・２３
　男女バスケットボールの活躍に思いをはせて

○　油井　康　さん　おめでとうございます・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・３９
　「第 16 回日本スポーツグランプリ」 受賞

○　高校籠球ふるさと記（福井県編）・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・４０

○　高校籠球ふるさと記（岩手県編）・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・４５

○　訃報・追悼文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・５０

○　事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局・・・５２

○　プラザ こぼればなし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５３

「プラザ」誌面の表紙裏に「神田バスケットボール資料室」で保管の史料を順次公開

本 91 号の「誌上公開」は「昭和初期から戦後にわたるルールブック」

令和３年度　理事会と通常総会の開催報告

［事務局］

令和３年度理事会の開催は、新型コロナウイルスの感染拡大懸念されていることから中止し、前年同様に定款 35 条（表決権など）第２項に基づき、書面議決（メール）による開催とさせていただきました。理事の皆さまに「令和３年度通常総会資料」（案）を送信し、６月 20 日までに回答をいただき、賛成多数の過半数で各議案についてご承認していただきました。

続いて、通常総会についても定款 27 条第１項に基づき書面による開催とし、会員の皆さまに６月に発行した「バスケットボールプラザ N0.90」に「令和３年度通常総会資料」を掲載し、下記各議案について、はがきによる回答をお願いしました。

（１）第１号議案　令和２年度事業活動報告
（２）第２号議案　令和２年度事業会計収支決算書報告
（３）第３号議案　令和２年度監査報告
（４）第４号議案　令和３年度事業活動計画（案）
（５）第５号議案　令和３年度事業会計収支予算書（案）
（６）第６号議案　定款変更

これらをご審議いただき、各議案のすべてについて賛成多数の承認を頂きました。

また「事業報告書等提出書」を東京都管理法人課に提出し、令和３年７月 28 日付けで収受されたことを報告いたします。

「バスケットボールプラザ」年４回の発行、「神田バスケットボール資料室」資料・収集・整理の活動についてはさらに充実させていく予定です。
「会員の交流」を目的とする 11 月の講演会については、コロナ感染の先行きが不透明であり、残念ながら中止とします。
来年２月に改装となった代々木第二体育館で開催のシニア交歓大会などについては、管理団体（日本スポーツ振興センター）との意向を考慮しつつ開催の判断をします。
令和３年度の活動も今後の状況をみながら対応していく所存です。

新型コロナの感染が続く環境の中ですが、事務局は毎週火曜日のみ出勤し、振興会の事業活動の対応を行っています。今後も状況を見ながら、皆様方のご意見をお聞きし、事業活動を行っていきたいと考えています。
日頃の振興会の活動にご理解いただき感謝申し上げます。今後とも何卒、ご理解ご協力賜りたくお願い申し上げます。

以上

東京 2020 オリンピック 5 人制女子バスケットボール

歴史を変えた女子日本代表

［編集部］

新型コロナの影響で１年延期された東京 2020 オリンピックが、7 月 23 日に開幕された。新型コロナ感染拡大の影響で、首都圏に緊急事態宣言が発出され、一部会場を除いた殆どで無観客となり、今一つ盛り上がりに欠けるオリンピックとなったが、低身長の出場チームと選手は最高のパフォーマンスを発揮してくれた。

以下にオリンピアンとして登録された女子日本代表チームメンバーを紹介する。

＜スタッフ＞

役　職	氏　名	所　　属
コーチ	ホーバス　トム	（公財）日本バスケットボール協会
アシスタントコーチ	恩塚　亨	東京医療保健大学

＜東京オリンピアン・女子＞　　＊年齢・所属は2021年７月現在

NO	選手名	P	身長 ｃｍ	所　　属
0	長岡　萌映子	ＰＦ	183	トヨタ自動車アンテロープス
8	高田　真希	Ｃ	185	デンソーアイリス
12	三好　南穂	ＳＧ	167	トヨタ自動車アンテロープス
13	町田　瑠唯	ＰＧ	162	富士通レッドウェーブ
15	本橋　菜子	ＰＧ	165	東京羽田ヴィッキーズ
20	東藤　なな子	ＳＧ	174	トヨタ紡績サンシャインラビッツ
27	林　咲希	ＳＧ	173	ＥＮＥＯＳサンフラワーズ
30	馬瓜　エブリン	ＰＦ	181	トヨタ自動車アンテロープス
32	宮崎　早織	ＰＧ	167	ＥＮＥＯＳサンフラワーズ
52	宮澤　夕貴	ＳＦ	183	富士通レッドウェーブ
88	赤穂　ひまわり	ＳＦ	185	デンソーアイリス
99	オコエ　桃仁花	ＰＦ	182	富士通レッドウェーブ
	平　均		175.6	

PG ポイントガード、 SG シューティングガード、
SF スモールフォワード、 PF パワーフォワード、 C センター

女子バスケットボールにおいて日本は、リオ・オリンピックに続いて出場、予選リーグでグループＢに入り、世界ランキング格上のフランスを大接戦の末に撃破して、グループ２位となり決勝トーナメントへ進出した。

決勝トーナメントでは、準々決勝でベルギーに辛勝すると、準決勝では予選で勝っているフランスと対戦して圧倒、日本はオリンピック史上初めてとなる決勝へ進んだ。

決勝戦は世界の強豪でオリンピック６連覇中のアメリカに挑んだが、高さとパワーに勝るアメリカには及ばず、銀メダルに終わったがその健闘ぶりを大いに称えたい。

まず、グループＢでの女子日本代表の戦績を報告する。

［女子予選リーグ］

グループＢ　戦績表

順位	チーム	アメリカ	日本	フランス	ナイジェリア	勝	負
1	アメリカ		○　８６－６９	○　９３－８２	○　８１－７２	3	0
2	日本	●　６９－８６		○　７４－７０	○　１０２－８３	2	1
3	フランス	●　８２－９３	●　７０－７４		○　８７－６２	1	2
4	ナイジェリア	●　７２－８１	●　８３－１０２	●　６２－８７		0	3

7 月 28 日　フランス戦

	1Q	2Q	3Q	4Q	計
日　　本	13	21	18	22	74
フランス	17	19	13	21	70

世界ランク５位のフランスに 10 位の日本は果敢に戦った。平均身長でも 9.5ｃｍ高いフランスに対してダブルチームなどを含めた執拗なディフェンスでペースを与えなかったことが、ロースコアでの勝利につながった。

第１クォーター、フランスが高さを生かしたインサイドプレイや３Ｐシュートなどで得点していくのに対して、日本は肝心の３Ｐシュートが決まらず、一桁台の得点が続く。終わり近くになって替わって入った馬瓜がスライドインで２ゴールを奪ったが 13－17 で終わる

第２クォーターに入ると、日本は本橋の３Ｐ、エブリンの３Ｐが成功 19－18 と逆転する。フランスも負けじと３Ｐを含むシュートを成功させたので、開始２分に日本は 19－25 と再逆転される。しかし日本はここから多くのメンバーが思い切ったオフェンスで得点を重ねた。すなわち東堂のドライブイン、三好の３Ｐ、町田のドライブイン、宮澤の３Ｐなど素早い動きからの得点で一気に差を詰めて 34－36 と、日本は１ゴールのビハインドで前半を終える。

後半開始早々、長岡がスティールからの速攻で逆転すると、そこからは接戦ではあるが一度もリードされることなく第３クォーターを終える。

このクォーターで日本が目立ったのは上背で劣る町田、林、赤穂の三人が果敢にドライブインでシュートを決め、最後に、高田が速攻で走ってアンスポーツマンライク・ファウルをもらい、フリースローを決めたことであろう。

第４クォーターに入って、一進一退のシーソーゲームが続いた。日本はこのクォーターで、高田の３Ｐに加え、長岡が３Ｐ２本、林が同じく２本を決め、格上のフランスと同等の戦いだったが、勝敗を分けたのは残り１分を切ってから。

日本は 68－69 と１点ビハインドだったが、長岡がリングからかなり遠い左 45 度から絶妙の３Ｐを決めて 72－68 とリードを 4 点に広げる。フランスのタイムアウト後、日本はボールキープの際ターンオーバーとなり、得点が 72－70 と２点差となる。

その後も日本はボールをキープするが、フランスのファウル作戦で林がフリースローをもらい２本とも決めてゲームセットになる。

高身長で世界ランク上位のフランスと激戦を演じ、最後に抜け出した日本の力は素晴らしく、低身長であっても戦い方次第で大きな相手を倒すことができることを、実践をもって示してくれた日本代表に敬意を表したい。

データ的にみてみると３Ｐ成功率では日本が 41%だったのにフランスは 21%、２Ｐでは日本が 39%でフランスは 56%、フィールドゴールではフランスが勝っているが、内容的に３Ｐの確率が約２倍の日本に有利に働いている。立派なのはリバウンドで日本 34 本、フランス 35 本と身長差にかかわらず互角に戦っていることが表れて、最後に一歩リードしたことの裏付けにもなっている。

７月 30 日　アメリカ戦

	1Q	2Q	3Q	4Q	計
日　　本	30	10	13	16	69
アメリカ	28	21	16	21	86

世界ランク１位で世界的大会において負けたという情報を探すのに苦労する位の強豪アメリカに対して、日本がどう戦うか楽しみであったが、さすがにアメリカは隙がなかった。

しかも 206ｃｍのセンターを擁し、193ｃｍ以上の選手が５名もいるアメリカとの平均身長差が 11.5ｃｍにもなる。

第１クォーター、日本は、出だしからノビノビとプレイし、２点のリードで終えた。日本は相手ディフェンスに少しでも隙があれば３Ｐを思い切りよく放ち、このクォーターでは 10 本中６本成功しアメリカを上回った。

第２クォーターに入ると、日本の第１クォーターでのプレイを見たアメリカはディフェンスを一変させ、日本は良い位置でボールを保持できなくなってシュートが決まらなくなった。日本が武器の一つとする素早いドライブインも、大きな選手が上からブロックして、手から離れたシュートボールを叩き落される状況で、40－49 とリードされる。

第３クォーターに入ってもこの状況が続き、日本は３Ｐ、ドライブインとも失敗が多くなり、じりじりと引き離されていく。

第４クォーター、10 点以上リードして落ち着いたアメリカは、次々とベンチプレイヤーを投入、ディフェンスも少し甘くなり挽回のチャンスかと思われたが、体力消耗もあってか３Ｐも決まらなくなり、17 点差で敗れた。

この試合で最も目立ったのはリバウンドで、アメリカ 48 本に対して日本は 33 本と身長差を物語っている。シュート成功率でも３Ｐ、２Ｐともアメリカが日本をはるかに上回り、データ的にも勝てる様子は見当たらない。

日本はこうした欧米の高身長チームに対してのディフェンスをいかに工夫するか、ボールがインサイドプレイヤーに簡単に入らないようにするなどの課題が残る。

８月２日　ナイジェリア戦

	1Q	2Q	3Q	4Q	計
日　　本	30	21	33	18	102
ナイジェリア	22	16	19	26	83

世界ランクでも格下のナイジェリアに対して、日本は驚異的な３Ｐ成功で 100 点ゲームを展開した。

出だし日本は、ゾーンディフェンスのナイジェリアに対して若干オフェンスに戸惑いを見せたが、林が３本の３Ｐ決めるとにわかに勢い付き、宮澤、宮崎も負けじと３Ｐを成功させ、30－22 とリードして第 1 クォーターを終わる。このクォーターで日本は 10 本中７本の３Ｐを成功させた。

第２クォーターに入るとナイジェリアはペイント付近にボールを集めて追い上げをはかり、一時は接戦になるも、日本は残り２分からまたもや連続３Ｐを成功させ、51－38 で前半を終わる。日本の３Ｐ成功率は前半 63％の高率で、得点も 51 点となり、100 点ゲームが予想された。

第３クォーターに入ると、疲れからかナイジェリアのシュート失敗が多くなり、日本はリバウンドも支配してオフェンスの機会を多くしていく。中盤になると今度は宮澤の連続３Ｐが冴えて一気にリードを広げる。すると調子が良い林もさらに３Ｐを成功させ、ここまでで７本沈める。ナイジェリアのディフェンスがあまくなり楽な体制でシュートが打てるようになった日本は、宮澤がここまでで５本の３Ｐを叩き出し、まるで３Ｐ競争のような雰囲気となる。

周りからのシュートだけでなく、赤穂のドライブインなど日本の速いオフェンスでこのクォーターを終えると、得点が 84－57 となり 100 点に届きそうな感触となる。

するとホーマス・コーチは全員交替を指示しコート上は新しい５人のメンバーとなり、オフェンスでミスが出て戦況は一進一退の様相となるが、これまでの貯金が支えとなって日本は慌てることなくゲームをコントロールする。

日本が 100 点取れるかどうか気になったが、残り１分を切ってから 100 点目が入り、ついに 100 点ゲームに成功する。第４クォーターでも本橋や三好の３Ｐが成功し、日本の３Ｐ成功率は 49％となり、２Ｐと同様の成功率で 100 点を取る原動力となった。ちなみにリバウンドでは日本の 33 本に対してナイジェリアは 37 本と上回り、２Ｐでも成功率 56％と日本を上回っているが得点は伸びず、日本の粘り強いディフェンスと最大の武器でもある３Ｐが成功したことが大勝の要因となった。

これで日本はリオ・オリンピックに続いてベスト８への進出が決定した。

［女子決勝トーナメント］

決勝トーナメントはグループＡ～Ｃそれぞれから勝ち上がった８チームによる対戦で、表は最後に記載される。

日本は、グループＣ２位のベルギーと対戦ののち、グループＡ１位のスペインとグループＢ３位のフランスとの勝者と対戦する。

８月４日　**準々決勝**　ベルギー戦

	1Q	2Q	3Q	4Q	計
日　　本	19	22	20	25	86
ベルギー	16	26	26	17	85

８チームによる決勝トーナメント準々決勝、日本はＣグループ２位のベルギーと対戦、これまた身長差で上回るベルギーと文字通り死闘を繰り広げ、最少得点差で逆転勝利した。

ベルギーは日本の３Ｐを阻止するためか開始早々からしつこいディフェンスに出た。日本はこのディフェンスに一時戸惑い、ボールがうまく回らず思うように３Ｐも打てない中、町田が勇気あるドライブインを繰り返してチームを鼓舞する。

第２クォーターに入り高田が３Ｐを決めると、続いて宮澤が連続３Ｐを決めて波に乗り、30－18 とリードする。このリードで安心したのかどうかは不明だが、日本のディフェンスがあまくなりベルギーに連続得点され中盤に 30-28 と点差を詰められる。

詰められた日本はリバウンドからの速い攻撃で本橋が３Ｐを決め 35－28 とするが、その後ふたたびベルギーのミドルシュートなどで追い上げられ、そこからはお互いに逆転の連続が始まり、前半を終えて 41－42 と１点のビハインド。

日本は前半で７本成功率 47%の３Ｐを決めたが、しつこいディフェンスを相手にうまくかわされて、点の取り合いとなった。

第３クォーター、日本は先制点を入れたが、その後ベルギーのペースとなり日本のシュートが入らなくなる。ベルギーは高さを生かしたインサイドプレイ、リバウンドからの速攻等で得点を重ねる。４分に日本はタイムアウトを取って立て直しを図ったがベルギーのオフェンスを止められず、５分に 45－58 と 13 点のビハインドとなってしまう。日本はメンバーを入れ替えたり、宮澤の３Ｐが成功したりと食い下がりを見せるが本来のオフェンスが機能せず、61－68 と７点差のビハインドでこのクォーターを終える。

勝負となった第４クォーター、ベルギーが先制して 61-70 と差が開き、日本のオフェンスも動きが鈍くなり危機的な状況に陥ったが、ここから日本のド根性発揮が始まった。

宮澤が連続３Ｐを決めるとリバウンドからの速攻を走り抜けた高田がレイアップシュートを決めて 69－72 と迫る。ベルギーはたまらずタイムアウトをとるが日本の勢いは止まらず、高田の３Ｐや宮澤の３Ｐなどを含めお互い点の取り合いが続く。

一進一退を繰り返してゲームが経過し、残り１分を切って 83-83 の同点となり、残り 37 秒に日本はファウルでベルギーにフリースローを２本決められ、ベルギーが 85－83 とリード。日本は、そのあとの攻撃で残り 15 秒、林が落ち着いてディフェンスをかわした後３Ｐを決めて 86－85 と日本が再逆転する。

ベルギーのタイムアウト後、チームファウルが３回だった日本のディフェンスが注目されたが、日本はファウル作戦を取らずに守って相手のシュートミスを誘い劇的な勝利を収めた。

データを見ると２Ｐ成功率は両チームとも 52%、３Ｐ成功率は日本が 42%だったのにベルギーは 48%、リバウンドは日本の 29 本に対してベルギーは 36 本といずれもベルギーが上回っている。この差を埋めたのは、苦しい時でも頑張る精神力しかないのではなかろうか。

中盤に一時は 13 点のビハインドだった日本が、あきらめず粘り強く戦って勝利したことは値千金。ホーバス・コーチが１点差でタイムアップブザーが鳴ったとき、頭の中が真っ白になったと言うくらい価値がある１勝であった。

これで日本はオリンピック史上始めてのベスト４となり、準決勝でフランスと対戦することとなった。

８月６日　**準決勝**　フランス戦

	1Q	2Q	3Q	4Q	計
日　　本	14	27	27	19	87
フランス	22	12	16	21	71

日本の史上初めてオリンピックベスト４に進出した日本、この試合に勝てば決勝戦で女王アメリカと対戦することになりメダルは金か銀。長い間ホーバス・コーチが目標としてきた偉業に近づく準決勝、最初は目まぐるしく交替するフランスに惑わされ、ターンオーバーから相手に得点されるシーンが目立った。

第１クォーター、８分過ぎまで点の取り合いが続いてきたが、その後フランスが３Ｐを決めて勢いづき日本のターンオーバーからの速攻も決まって 14－22 と８点ビハインドとなる。

第２クォーターに入ると日本にスイッチが入り、林が速攻を決めると高田も走ってバスケットカウントを取り、開始３分に赤穂がドライブインで決めて 23－25 と追い付く。

すると、４分に宮澤の３Ｐ、６分には高田が３Ｐを決めて 31－29 と逆転に成功する。フランスは高さを生かしたドライブインを試みるが、日本必死のディフェンスでシュートが不安定になり、得点が伸びない。

日本は８分に宮澤が連続３Ｐを決め、９分には赤穂とオコエがドライブインを成功させて 38－31 とリードを広げる。最後は林が３Ｐを決めて 41－34 で前半を終わる。

このクォーターにおける３Ｐやドライブインの成功は、いずれも町田の好アシストが絡んでいて、素早いドライブインでシュートと思いきや、外角でマークがいないプレイヤーにパスをつなげ、結果として高得点につなげている。

またリバウンドでも 10cm 以上身長に勝るフランス 18 本に対して、日本は 20 本を獲得し３Ｐとともに逆転リードの要因となっている。

後半に入っても日本の勢いは止まらず、赤穂の３Ｐに始まった得点は、連続ドライブインへと続き、宮澤や林の３Ｐも加勢し、７分には町田もワンハンド３Ｐを決めて 61－46 と 15 点をリードする。

ここでホーバス・コーチは主力を休ませる作戦を取ったが、町田はコート上に残り、交替したオコエの３Ｐやインサイドプレイの成功を導いている。

第４クォーター、東堂がフリースローを決めて 70－50 とすると、フランスはたまらずタイムアウト。３分に町田がベンチへ下がるとそこからフランスの反撃が始まるが、日本も交代したメンバーがドライブインを仕掛け、６分には速攻の三好に対するフランスのアンスポーツマンライク・ファウルもあり、その直後、三好が３Ｐ決めて 82－57 と勝利を決定づけた。

日本はさらにメンバーを交替し、多少ミスはあったものの全員出場全員得点で快勝した。

この試合でポイントガードの町田は 18 本のアシストを決め、オリンピック新記録を達成、赤穂も気を吐いて 17 得点７リバウンドの活躍、赤穂が見せた強力なドライブインは普段あまりやらないプレイとのこと、これも町田のアシストが導き出していたのかもしれない。

これで日本は、決勝戦でアメリカと対戦するが、世界の強豪に対して果敢に挑んで欲しいもの。

８月８日　**決勝**　アメリカ戦

	1Q	2Q	3Q	4Q	計
日　　本	14	25	17	19	75
アメリカ	23	27	25	15	90

日本にとってオリンピック史上初めてとなる決勝戦で、オリンピック 54 連勝中のアメリカと予選に続き再度対戦した。予選リーグで日本の弱点を知ったアメリカは、厳しいディフェンスで日本が武器とする３Ｐを封じ、攻めては徹底してインサイドへボールを集めて得点を伸ばし、日本に隙をあたえなかった。

出だしアメリカが先制得点した後、日本は高田がペイントエリアでうまく相手をかわしてシュートを決め、２－４としたが、その後アメリカが速攻を含む一方的なオフェンスで連続得点し、２－10 となる。日本は宮澤が３Ｐシュートに対するファウルでフリースロー３本決めて５－10 としたが、アメリカは着実なインサイドプレイと速攻で連続得点する。７分に高田が３Ｐ決めて８－18 となったところで日本はメンバーを３人入れ替え、替わった本橋が３Ｐを決めて 14－20 とした後、アメリカも３Ｐを決めて 14－23 でこのクォーターを終える。

第２クォーターの出だし東堂がジャンプシュート、長岡がペイント内で相手をかわしてシュートを決め 18-23 と詰め寄るが、アメリカはすぐ反応しミドルシュートを確実に決めてくる。この間の５分ほどは日本も本橋が気を吐いて３Ｐやドライブインなどで得点するが７点の差は一向に縮まらない。すると５分を過ぎて３分間ほどアメリカが猛攻、日本のターンオーバーから速攻や、ゴール下付近のシュートを次々と決め、８分には 32－46 と差が開き日本がタイムアウト。日本は高田が体を張った連続ドライブインで得点、終了間際に赤穂の３Ｐで差を詰め、39－50 で前半を終える。前半アメリカは、ディフェンス、オフェンスともゲームを支配、日本の３Ｐを封殺し、高さのあるインサイドプレイを多用して高得点とする。

第３クォーター、町田がドライブインを成功させるが、アメリカの攻撃は緩まず点差が開いて行く。日本は高田がペイントエリアからのシュートを連続成功させ、町田もドライブインからアシストパスを繰り出すが、その後のシュートは決まらず、リバウンドを取ったアメリカが着々と得点し、７分には 49－70 と引き離されてしまう。日本はタイムアウトの後、全選手を動員して反撃を試みるがアメリカの試合運びはいつになく慎重で、レギューラー選手の交替も少なく 20 点前後の得点差は縮まらない。

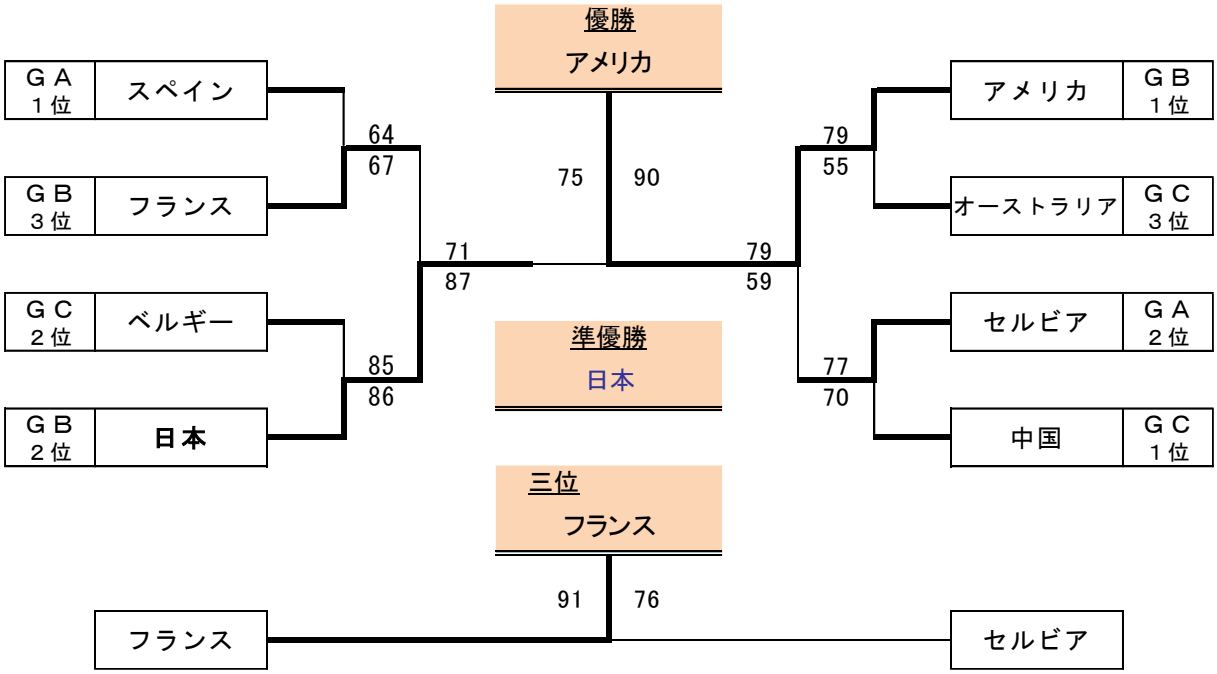
得点差があるアメリカは第４クォーターに入っても手を緩めることなく攻守で圧力をかけてくる。日本の３Ｐシュートがブロックされ、厳しいディフェンスで日本のターンオーバーを誘って速攻するなどアメリカのバスケットの凄さを見せつける。日本は本橋の３Ｐ、三好、町田、馬瓜、宮崎らが果敢にドライブインして必死に抵抗するが得点差は縮まらず時間だけが経過する。残り３分を切ってからアメリカがメンバー交替し、ベンチメンバーが出てくるとようやく日本も対抗できるようになり、オコエや馬瓜がオフェンスリバウンドから得点して少し得点が縮まるが、ゲームには支障なく大差をもってアメリカが勝利する。

この決勝戦にアメリカはいっときの隙も無く、終始必死に取り組んだ姿勢がうかがえる。リードしてもベンチが選手交替をあまり行わず、攻守ともに休みなく日本に立ちはだかってきた印象が強い。

日本は 2011 年から日本代表チームのコーチにトム・ホーバス氏を起用、特にホーバス氏がヘッドコーチに着任してからは、オリンピックで金メダルを取ることを目標に、世界一の練習量を誇り、選手たちも一丸となって厳しい練習に耐え、現在の女子代表チームができあがった。

欧米に比べて平均身長が 10ｃｍ近くも小さい日本が、史上初めてオリンピック決勝戦で金メダルを目指して戦った歴史は、これからの日本女子バスケットボール界に大きな大きな指針を与えてくれた。決勝戦で負けた後でも、まるで勝ったかのようにはしゃいでいた日本チーム、そのすがすがしい姿に金メダルをあげたい。

［決勝トーナメント成績］



東京 2020 オリンピック 5 人制男子バスケットボール

［編集部］

男子日本代表は予選リーグで敗退

新型コロナウイルスの影響で１年延期された東京 2020 オリンピックが、7 月 23 日に開幕された。
新型コロナウイルス感染拡大の影響で、首都圏に緊急事態宣言が発出され、一部会場を除いて殆どで無観客となり、今一つ盛り上がりに欠けるオリンピックとなったが、出場チームと選手は最高のパフォーマンスを発揮してくれた。
バスケットボールにおいては、世界各大陸代表に加えて世界最終予選で勝ち残った 12 チームが出場。日本代表は、男子が 45 年ぶりの出場、果敢に戦ったが世界の壁は厚く、予選リーグ敗退となった。

以下にオリンピアンとして登録された男子日本代表チームメンバーを紹介する。

＜スタッフ＞

役　職	氏　名	所　　属
コーチ	ラマス　フリオ	（公財）日本バスケットボール協会
アシスタントコーチ	エルマン　マンドーレ	（公財）日本バスケットボール協会

＜東京オリンピアン・男子＞　　＊年齢・所属は2021年７月現在

NO	選手名	P	身長 cm	所　　属
2	富樫　勇樹	ＰＧ	167	千葉ジェッツ
6	比江島　慎	ＳＧ	191	宇都宮ブレックス
8	八村　塁	ＳＦ	203	ワシントン・ウィザーズ
9	ベンドラメ　礼生	ＰＧ	186	サンロッカーズ渋谷
12	渡邊　雄太	ＳＦ	206	トロント・ラプターズ
14	金丸　晃輔	ＳＧ	192	シーホース三河
18	馬場　雄大	ＳＦ	198	メルボルン・ユナイテッド
23	エドワーズ　ギャビン	ＰＦ	206	千葉ジェッツ
24	田中　大貴	ＰＧ	192	アルバルク東京
32	シェーファー　アヴィ　幸樹	C	206	シーホース三河
34	渡邉　飛勇	ＰＦ	207	カリフォルニア大学デービス校大学院
88	張本　天傑	ＳＦ	198	名古屋ダイヤモンドドルフィンズ
	平　均		196	

PG ポイントガード、 SG シューティングガード、
SF スモールフォワード、 PF パワーフォワード、 C センター

次に、男子予選リーグにおけるグループＣでの男子日本代表の戦績を報告する。

［男子予選リーグ］

グループＣ　戦績表

順位	チーム	スロベニア	スペイン	アルゼンチン	日本	勝	負
1	スロベニア		○　９５－８７	○　１１８－１００	○　１１６－８１	3	0
2	スペイン	●　８７－９５		○　８１－７１	○　８８－７７	2	1
3	アルゼンチン	●　１００－１１８	●　７１－８１		○　９７－７７	1	2
4	日本	●　８１－１１６	●　７７－８８	●　７７－９７		0	3

グループＣではスロベニアのルカ・ドンチッチがＮＢＡ同様の活躍で世界ランク一桁のスペイン、アルゼンチンを蹴散らして１位となった。

7 月 26 日　スペイン戦

	1Q	2Q	3Q	4Q	計
日　　本	14	14	28	21	77
スペイン	18	30	21	19	88

八村塁、渡辺雄太と二人のＮＢＡプレイヤーを擁する日本は、世界ランク２位のスペインに善戦したが第２クォーターで一気に突き放されて及ばず。

スペインは 12 名全員が出場し、11 名が得点を上げ出場時間もかなり平均しているが、日本は２名が不出場で、八村、渡辺、馬場に出場時間が偏り、得点も八村と渡辺に偏っている。

バスケットの場合、一人の選手が長時間にわたってオンザコートにいる場合、体力の消耗が激しく、多くの選手が出場しても戦力が落ちないことが必要となる。

体力の消耗はシュート成功率の低下につながり、ひいてはリバウンドにも悪影響を及ぼすので、コーチは出場時間の平均化を望むのだろうが、現在の日本代表はなかなかそれが難しい。

スペイン戦のデータを見てみると、日本は２Ｐ・３Ｐ併せて 101 本のシュートを放っているが成功率は２Ｐ・３Ｐともに 40%、スペインは２Ｐ42 本中 28 本成功で成功率 57%、３Ｐでは成功率 29%と日本より低いが、リバウンドで 42 本と日本を 10 本上回っている。

さらにフリースローの成功率は、スペインの 73%に対し日本は 41%で、シュート成功率、リバウンドなどの数字が善戦しても勝てない要因を表している。

どこのチームもディフェンスが厳しいのでシュート確率をＵＰするのは容易ではないが、この辺りを改善しないと世界には追い付けそうもない。

7 月 29 日　スロベニア戦

	1Q	2Q	3Q	4Q	計
日　　本	23	18	23	17	81
スロベニア	29	24	27	36	116

スロベニアの世界ランクは 16 位、41 位の日本に「もしかしたら」の期待が持たれたが、結果は惨憺たるありさまで、スロベニアに 116 点の高得点で敗れた。

スロベニアはＮＢＡプレイヤーであるルカ・ドンチッチを中心に、３Ｐや素早く力強いドライブインなどで最初から最後まで日本を圧倒。

日本は八村が 34 得点７リバウンド、渡辺雄太が 17 得点７リバウンドと意地を見せたが、相手の厳しいディフェンスによって、楽にシュートを打たせてもらえず敗れた。

特に第４クォーターでは大人と子供のような展開となってしまい、スロベニアに遊ばれてしまったような感もある。

データ的にみても３Ｐは 39%と互角だったが、２Ｐ成功率では 44%とスロベニアの 68%に遠く及ばない。相手の早い動きとフィジカルで勝ったシュートを防ぐことができず、相手に 22 本のフリースローを提供、日本は９本しかフリースローがなかった。

スペイン戦でも触れたが全員出場全員得点のスロベニアに対して、日本は出場できなかった選手を含めて５名が無得点であり、得点だけで言えば７名で戦ったことになり、八村や渡辺がいくら頑張ってもこれでは勝ち目がない。

８月１日　アルゼンチン戦

	1Q	2Q	3Q	4Q	計
日　　本	16	22	15	24	77
アルゼンチン	26	20	19	32	97

スロベニア戦で怪我をしたエドワードを欠く日本は、出だしからシュートに精彩を欠き、しかもターンオーバーを続出して第１クォーターであっという間に引き離されてしまった。

それでも第２クォーターでアルゼンチンのシュートミスが多くなると、リバウンドを支配して挽回に努力するが肝心のところで３Ｐシュートが入らず、引き離された得点を２点しか詰められなかった。

後半第３クォーターで先制点を取るなど出だしは良かったが、その後日本のシュートが入らなくなるとじりじりと引き離される。

アルゼンチンは八村をかなり意識してか執拗に八村をディフェンスし、ボールが思うように八村に回らなくなる。結果としてディフェンスリバウンドを取った八村が一人でドリブルしてゴール下まで攻める光景も目立った。

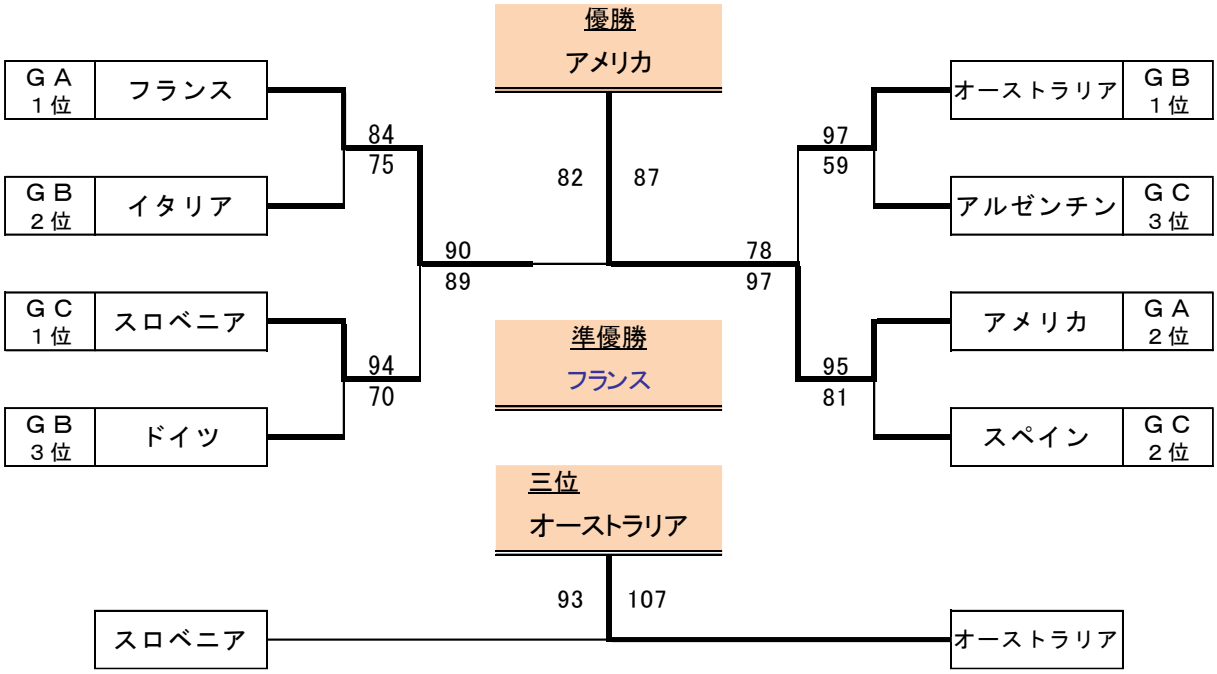
日本はアルゼンチンの強力なディフェンスを交わすことができないまま終わり、この試合に勝てば決勝トーナメントへ進めるという道も絶たれ、３戦全敗で 45 年ぶりに出場したオリンピックを終えた。

世界の男子バスケットは年々進化し、ノーマークであればフロントコートの遠い位置からでも３Ｐシュートが成功する確率が上がっている。ましては２Ｐでは 60%台の成功率が当たり前のようになっていて、50%台の日本はまだまだ世界に及ばない。

上記３ゲームを見ると、身長ではそんなに劣らない日本になったが、フィジカル面では弱さが目立ち、リバウンドと合わせていかに高得点に結びつけられるかも課題が山積である。

日本選手は、まず、相手と当たっても力負けしない体力とポイントゲッターとして優れた得点能力を持ってほしい。そして、アシストパスが上手であれば言うことなしである。これを日本代表選手に期待したい。

男子決勝トーナメントでアメリカが優勝



予選リーググループＡでフランスに 76－83 で敗れたアメリカが、決勝では 87－82 で雪辱して勝利し、金メダルを獲得した。

グループＣ１位のスロベニアはフランスとの接戦が評価され、８月９日付けの世界ランキングで 12 ランクアップし、４位となった。

ちなみに、新しい世界ランキングで上位３チームは変わらないが、１位アメリカ、２位スペイン、３位オーストラリア、４位スロベニア、５位フランス、６位セルビア、７位アルゼンチンで、日本は７ランクアップして３５位になった。

人物抄

時空を超えての教え　畑　龍雄　さん

［歴史部］

戦後（昭 23 年５月）開催された「新制高校座談会」で司会から、「協会の技術委員長として畑さんに来て頂いたのですが、最高責任者に何か聞くことはありませんか」の問いに、畑は「変なことをいうなよ。僕の考えでは技術委員会の役目は、結局実際にチームをみてやっている人が工夫していることを出来るだけ集めて有効に交流させたり出来ればいいと思う。とても技術の最高指導などということは考えられない」と語っている。(1948 年バスケットボール NO.4)

1909 年（明 42）11 月１日生れ、旧制武蔵高校を経て、東京帝大理学部数学科を卒業、武蔵高校、同大教授などを歴任、一貫して教育界に身を投じながら、バスケットの指導を行う。戦前の旧制武蔵高校で全国制覇したのをはじめ東京帝大を卒業してからまもなく指導をおこなった東京女子高等師範学校附属高等女学校（現お茶の水女子大学附属中学校）を昭和 14 年から、連続優勝に導くなど独特の指導は当時から注目を浴びた。戦後も新制武蔵高校を全国優勝へ導くなど全国の指導者の目標的存在であった。

〈初めてのバスケット・武蔵高校入学〉

1918 年（大 7）旧本郷区（現文京区）富士前小学校で開催された学童籠球大会で始めてバスケットボールを観戦した。武蔵の３年の時、学童大会を見てどこかの高等小学の女の子が実にうまくて、それを見てバスケットをやりたくなった。ランニングシュートを正面からボールドを使わないでノータッチでスイスイ入れていた。小学生でね！（1948 年籠球 NO.4 ）。主催は三橋喜久雄が設立した三橋体育研究所で、スウェーデン体操の振興を主として活動し、特にバスケットボールの研究・普及にも力を注いていた。

1922 年（大 11）４月に開成中学校に入学、翌年 1923 年（大 12）４月武蔵高校尋常科（現武蔵高等学校中学校）へ転校（２年に編入）バスケットを始めたのは、確か 1925 年（大 14）だった。(1948 年バスケットボール NO.4)

〈バスケット部創設・関東高校リーグ参加、独自の合理的練習方法〉

旧制武蔵高校の１期生が尋常科４年になった 1925 年（大 14)、初めて校内に石炭殻を敷いた粗末なバスケットコートが出来、熱心な愛好者が集まった。1927 年（昭２）正式に籠球部を結成、11 月に東京、成城、浦和、一高、成蹊、武蔵の６校で関東高校籠球リーグ戦を発足し、武蔵高校の戦績は 10 戦 10 敗。優勝は、東京高校、成城、成蹊の順。

その後、半年間「無知やみくも」に練習し、翌年の 1928 年（昭３）３月東京高校のホームコートにのりこんで勝利した。７月に東京で開催された第４回高等学校選手権大会に参加し、２回戦で成蹊に敗れた、優勝は八高。11 月に、第２回関東高校籠球リーグ戦７勝３敗、成蹊に次いで第２位になった。

武蔵のバスケットは、学校側から放課後１時間 20 分しか練習が許されず、猛烈なだけ

の練習ではなく理論を追求し、合理的な練習方法を追い求める気持ちが強かった。
　学校の方針で留年した生徒の対外試合禁止令によって試合が出来ず、必然的にコーチになった由。（武蔵高校３期・岩田勝男「畑君を思う」）

［３つの気づき］（畑龍雄年表より）
　何をしたらよいか自分で発見したことを習慣にする練習を繰り返ししつこく行うという独自の合理的な練習をするコーチのスタイルに気づいた。第２回関東高校リーグ戦で第２位になったことは、驚きであり、
　①　「相手との実力の差はわずかなものである」ということを気づき
　②　あることをしつこくくりかえすことによって習慣にしようとするのが練習であると気づいた
　③　何をすべきかについてはゲームをたくさん見ることによって発見した。
　この時期のこれらの気づきは、その後の「コーチとしての生き方」の基礎を成している。自分たちで考え、自分たちで練習方法を工夫して練習した。当時の東京の強豪であった成蹊高校、成城高校、兵庫の甲南高校などは、ＯＢをコーチとして招いて指導を受けていたが、武蔵高校の教育理念「３理想」のひとつである「自ら調べ自ら考える力を養うこと」の考え方を実行した。

〈戦前のインターハイ　第１回～第 20 回〉
　大正 14 年から東京帝大・京都帝大それぞれが東京・京都で高等学校の大会を開催していたが、権威も組織も十分でなく重要視されておらずそのため参加校も少なかった。
　1929 年（昭４）、第１回全国高等学校バスケットボール大会（インターハイ）は、全国の高校 24 校（一高、六高、七高、学習院、弘前、新潟、富山などが不参加）が参加し京都府立京都第一中学校において７月 25 日～28 日、４日間にわたって開催された。圧倒的に生徒数の多い３年制の高等学校に対し、少数教育を旨とする７年制高等学校との競合では、人数的に劣っても７年の一貫教育を通じた長期計画に基づいて練習する団体競技に有利であったように思える。
　昭和４年から戦後の昭和 23 年まで、昭和 13 年・15 年の三高、昭和 17 年の浦和を除き全て七年制高等学校が優勝している。（優勝回数は、甲南４回、成蹊３回、成城、三高２回、武蔵、浦和、浪速、都立、東京高１回）
　決勝は、武蔵と成蹊で、畑、岩田、三浦、村木など（武蔵）のまことに粘っこい戦いぶりにてこずったが（成蹊高校・井上陽一氏曰く）、田中秀次郎、龍江義和、井上陽一などを擁する成蹊高校が念願の初優勝、21－14。　武蔵は、敗退し準優勝。10 月　第３回　関東高校籠球リーグ戦　10 戦 10 勝　成蹊高校優勝、７勝３敗　成城高校と同率２位。
　1930 年（昭５）１月 インターハイ　成蹊に敗退、
　1931 年（昭６）３月 武蔵高等学校卒業、９月 全日本総合選手権大会　成蹊高校が優勝。

〈1932 年（昭７）明治神宮大会　「籠人クラブ」が優勝〉（成蹊高ＯＢ井上陽一氏）
　1931 年（昭６）武蔵高校を卒業して、東京帝大経済学部の入試を受けたが、不合格。当時浪人していると兵役義務に服さねばならなかったので自宅に近い立教大学の入試を受け何とか合格した。翌年、東京帝大の入試を受けるつもりであったので立教大学の授業には出席せず、バスケット部にも入部せず水道橋の研数学館に通って一年後の入試に備えていた。この年、関東６高校バスケット部に居た猛者連中で東京帝大の受験に失敗した者が 10

数名に及んでいた。そこで浪人中の諸君を集めて「浪人クラブ」と称するチームを急遽結成し、明治神宮大会に参加することになった。しかし、天覧試合の故もあって「浪人クラブ」の名前は不当であるとし日本協会が認めてくれず「籠人クラブ」に変更して参加した。

籠人クラブは、予選を軽くパスして本線の決勝戦に臨み、相手は早大現役・ＯＢ混成のＲＤＲであったが、接戦の末逆転して優勝した。田中（成蹊）、畑（武蔵）、入江（松本）、塚本（東京）、八代（松本）、尾形（成蹊）、若林（成城）などで、この連中が翌年東京帝大に入学し、帝大バスケット部の黄金時代を築くことになった。

1933 年（昭８）第５回インターハイ決勝にて、長身の鹿子木、尚、桂など武蔵高全盛チームと成蹊高とが対戦、武蔵高が 41－33 にて勝利。武蔵高校は（成蹊バスケットボール年表より）長身を擁したチームで、センターをポストゲッターとしあまりフォーメーションにとらわれず、ファーストブレイクとフォローアップとポストプレーで戦いを展開。即ち昭和４・５年は成蹊が田中選手（188 ㎝）、昭和６・７年は中江選手（185 ㎝）、そして武蔵は鹿子木選手を擁しこの手法で優勝（甲南高校年史）。

この時のチームオフェンスには、スクリーンプレーが取り入れられていた。日本で独創的に作られたスクリーンプレーの最初の成功例としている（畑龍雄「回想」）。

〈1933 年（昭８）東京帝大理学部数学科入学〉

関東大学リーグ東大優勝。「籠人クラブ」のメンバーに加えて浅野（甲南）、三浦（武蔵）などが入学、東京帝大籠球部は一段と強化された。「帝大が用いたゴール近地におけるスクリーンオフェンスはあるいは交互に行き交い、あるいはポスト背後よりとび出すなど極めて簡単ながら十分練習を積んで磨きのかけられた鋭さを有していた」（李想白のアサヒスポーツに載った大学リーグの総評）

1934 年（昭９）１月全日本　準決勝で成蹊に敗退・関東大学リーグ　優勝

〈1935 年（昭 10）・ライバル成蹊高校の指導者と李想白との出会い
・指導者としての考え方の選択〉

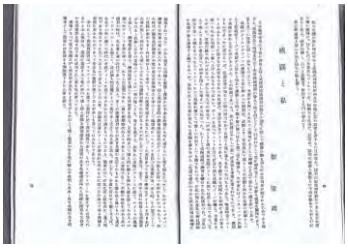
李想白さんから受けた名刺

自分は、プレイヤーとしてもそれなりに出来たと思うが、コーチとしての方がチームに役に立つと思い東大入学後、自ら申し出てコーチとなった（今年度の帝大から５月籠球 12 輯）。各大学の指導者を訪ね、当時指導者として新しい日本のバスケットボールについてこうでなくてはいけないという信念をもっていた李想白と出会い、指導法についての考え方などの教えをうけた。李想白が指導していた早稲田大学は近代バスケットのスタートを切れたわけで、バスケットボールについて李想白は研究熱心で、バスケットボールについて理念をもっていた。（1932 年 RDR60　富田毅郎）

会報創刊号の表紙

李想白は、昭和５年「指導籠球の理論と実際」を出版、昭和 10 年小論「コーチの類型と進化」を発表し、９通りのコーチの型について考察している。奔放型・速攻法とシステムプレーを併せ持つ自由自在に連続されるチームをめざした科学的プレー型の指導法を理想のコーチ像としている。

畑は「成蹊と私」という主題で、ライバル成蹊高校籠球部についての思いを、成蹊籠球会報（創刊号・昭和 11 年 11 月 30 日）に寄稿している。



会報創刊号に投稿の記事

成蹊がオールジャパンに優勝するまでの輝かしい時期は成蹊より２年遅れて部として活動を始めた武蔵としても丁度高校リーグで成蹊が３位から始めて優勝した時 10 戦 10 敗の第６位から第２位に躍進し、次年度はインターハイの決勝で成蹊に敗れるまでゆけたという、その時期であった。この記録は今にして思えば非常に幸運に恵まれたものであり、偶然なものであったに違いないが、私自身の知るこの間の努力に於いては敢えて人後に落ちなかったにつもりである。唯当時全くコーチというものなしに進まなければならなかった私達が身近な良きティームであり、良き敵である如何に多くの事を教えられたか到底数えられるものではない。ボールを持ってコートに立てば目の前を成蹊のゾーンが踊る。―成蹊、成蹊で練習を続けていた私達であった。公私の試合を交える様になってからストレートに 13 回敗れ続けて口惜しいが何しても勝てなかった。

最後になって甚だ失礼ながら部長**岩永先生**によそながらかねがね懐く敬慕の念を茲に謹んで表明し末永く良き成蹊の指導者として間接には私達をもご指導下さらん事を祈る。

※２代目籠球部長「**岩永源作**」（成蹊バスケットボール史 50 年史より要約）

昭和２年バスケット部創立時の初代部長下間佐吉氏に続いて、昭和３年からその後 20 年間部長を務める。福井県出身で高等師範、東北大卒業、前任地の水戸高校を経てから昭和の初め成蹊高等学校の化学の教師となる。著作「横観無機化学」「横観有機化学」などは優れた参考書として広く全国で愛用された。

バスケットボールの技術の指導より学業・品行などを中心とする部員個々の指導を重視した。

1937 年（昭 12 年）３月　東大理学部数学科卒業
1942 年（昭 17 年）１月　全日本大会開催は中止
　　「或るチームの考え方」を掲載（籠球 33 輯 3/31）
1943 年（昭 18 年）４月武蔵高校教師奉職

1929 年（昭４）から続いたインターハイは、1948 年（昭 23）の第 20 回インターハイの東京高校の優勝を以て、戦後の学制改革により、旧制高校最後のインターハイとなった。

〈戦後の活動について〉

戦後、日本協会理事（昭和 21 年４月）に就任するが、協会の役員としての活動より、地方の指導者から要望があれば、全国どこへでも生徒同伴で出張指導することを優先した。高校時代には、自ら調べ自ら考え、当時全国制覇した成蹊高校の指導者から学び、李想白氏との出会いで、コーチの型を追求し学んだ指導者としての独自の考え方をあらゆる機会に発信した。戦後も、指導者、審判員などバスケットボールについての考え方を多くの資料として記している。

生涯にわたり残してくれた日本のバスケットボールのあるべき指針についての考え方は本質的に時代を経ても変わらず、現代の指導者もおおいに参考にしていただきたい。

【参考資料】

〈籠球〉　「或るティームの考え方」第 33・34 輯合併号

〈バスケットボール〉

・「練習の基礎的問題（一）全日本綜合選手権大会を語る/NO.1」
・「練習の基礎的問題（二）実業団座談会・司会/NO.2」「女子チームに、質問欄/NO.3」
・「我々はこう思う　　/NO.4」「昭和 24 年度協会役員・理事・規則委員長/NO.5」
・「ハワイチームに学ぶ.全　　学生コーチ/NO.9」「日本鋼管の敗因/NO.11」・「レフリー学校・審判講座　・パーソナルファールの巻/NO.16」
・私はこう考えるーアジア大会・前田報告書を読んでもう少し考えたい/NO.17」
・「ハワード・ホブソン極東軍向けバスケットボールコーチ講習会/NO.18」
・「座談会インカレ四方山話・畑龍雄氏を囲んで/NO.19」
・「基礎技術研究室・フォローに就いて/NO.20」
・「インターカレッジ特集選手権総評・名門校めぐり・武蔵高校/NO.24」
・「プレイヤーはいかにゲームを見るべきか/NO.28」
・「檜舞台は何を語ったか・メルボルンオリンピック報告会/NO.29」
・「今一番困っていることをおたずねします・解答者/NO.33」
・「今一番困っていることをおたずねします・解答者・日本チーム合宿所訪問記・アジア大会コーチ/NO.34」
・「日本チームの反省/NO.35」　　・「今一番困っていることをおたずねします/NO.38」
・「全日本選手権大会総評・今一番困っていることをおたずねします/NO,43」
・「五輪代表の顔（ローマ）NO.44」「クローリー氏の講習会に附して/NO.56」
・「第 16 回全国高等学校選手権大会/NO.58」　　・「ブラジルチームに学ぶ/NO.60」
・「アメリカ・ソビエト戦を見て・外国審判員についての所感/NO.65」
・「新しい技術の考え方」体育・池田書店/1961 年 12 月号より
・「バスケットする心」新体育第 41 巻第６号より
・「バレーボール＆バスケットボール」ベースボールマガジン社
・「審判研究・その基本的態度について・審判憲章」1959 年６月創刊号
・「審判の任務と要領」1960 年４月、６月
・「バスケットボール学校」スポーツ毎日 1952 年
・バスケットボールプレイヤーのための技術訓
・(バスケットボールハンドブック第２巻「守備編」タチカラ株式会社 1967 年)
・図説バスケットボール事典/牧山圭秀、吉井四郎、畑龍雄著、昭和 41 年講談社
・「バスケットボールの授業」中学生体育指導ハンドブック畑龍雄校閲、昭和 37 年ベースボールマガジン社　　・「成蹊バスケットボール部 50 年史」
・「成蹊籠球会報」(創刊号・昭和 11 年 11 月発行)
・「わたしたちの記録」(「東京女高師（お茶の水女子大学）附属高女籠球部素光会編　昭和 56 年４月発行
・「へばったらがんばれ」(畑龍雄先生追悼文集・平成 12 年 11 月発行)
・「あゆみ」(畑龍雄先生の米寿を祝う会)　・「杉本先生を偲ぶ」　・「三橋誠の想いで」
・「本質を衝く鍛えた眼力」(ワンマンルポ 29 号)
・「近頃の若いもんは！（随筆・雑感・490 号）スポーツイベント社
・「バスケットボールプラザ NO.13」

以上

1964 年東京オリンピックの思い出

羽佐田　恭正

無観客という異例の事態になりましたが、2020年東京オリンピックが開催されました。

私は、昭和 39 年 10 月 10 日に開催された前回の東京オリンピックでバスケットボールの競技委員を務めましたので、1964 年東京オリンピックには特別の思い入れがあります。57 年前のあの日、台風の影響で雨降りだった前日が嘘のような快晴でした。国立競技場のスタンドから見上げた航空自衛隊ブルーインパルスの描いたあの見事な５つの輪を今でもはっきり思い出すことができます。

昭和 10 年生まれの私は、その時代の学童のご多分に漏れず、国民学校（現在の小学校のこと）時代は田舎に疎開していました。やがて終戦となり、疎開先から戻った私は、練馬区の豊玉第二国民学校に転校して野球に夢中になり、区の大会で優勝したこともあります。

しかし国民学校卒業後に進学した学習院中等科の野球部では軟式でなく硬式球を使用していましたので、私の腕力では無理だと悟り、野球を諦めました。

バスケットに出会ったのは高等科に進んで籠球部に入部したのがきっかけです。バスケットが面白くて懸命に練習しましたが、なかなか勝てません。大学でもバスケットを続けましたが、２年になる春の合宿で身体を壊し、プレイヤーを断念しましたが、バスケットに対する想いを断ち切ることができず、後輩の高等科や女子中等科のコーチを任されました。

そうした経緯から、当時御茶の水の岸記念体育館にあった日本バスケットボール協会によくでかけていました。協会は年に５回、機関誌を発行しており、その編集メンバーの一人として、毎週夜に集まり、原稿依頼やら編集レイアウトをして印刷屋に頼み、出来上がった機関誌を協会に加盟しているすべてのチームに発送していました。

当時は、今と異なり就職後も協会に出かけるのは自由でしたので、引き続き編集委員の仕事をしていたところ、思いもかけず昭和 39 年６月 23 日付けで東京オリンピック組織委員会からバスケットボールの「競技委員」を委嘱されました。ちなみに競技委員になると「身分証明書」のほかユニフォーム一式もらえます。写真がその上着でこれだけは家内が大事に保管してくれました。競技委員は全部で 172 人。私の仕事はその中の８人いた「報道編集員」という仕事でした。協会として公式記録を作るのが仕事ですから、全試合を観戦しなければならず、また一人ひとりの顔写真も手に入れなければならないので、想像していたより大変な仕事でした。

大会開催中は、朝ちょっと会社に顔を出してから、代々木に行き写真を撮ったり試合を見たりと忙しく過ごしました。忘れられない一戦があります。それは日本対メキシコ戦で前半タイムアップ直前に日本のゴール下からメキシコの選手が投げたボールがすっぽり得点、試合結果は２点差で日本が負けました。

この大会で日本は 16 ヵ国中第 10 位。ちなみに平均身長は 15 番目ですから、バスケットボールは身長に左右されるスポーツといえるでしょう。

※　日限山いぶき会「いぶき会便り」第 172 号（令和３年７月 28 日）より転載

東京 2020 聖火リレーランナー

川戸　政角

今年の１月25日にメールが届きました。「３月25日からスタートする東京オリンピック聖火リレーですが、新日程に伴い、スケジュールの都合等による辞退者が出たため、東京2020オリンピック聖火リレーランナーに選ばれました！
おめでとうございます！」

メールは聖火リレーパートナーのトヨタ自動車株式会社からでした

最初はフェイクニュースかと思いましたが、その後組織委員会からもメールが届き、諦めていたリレーランナーに本当に選ばれたのだと興奮した覚えがあります

私がオリンピック組織委員会に提出した志望動機は

１. 富士見台ミニバスケットボールクラブ（横浜市保土ヶ谷区）を 1994 年に創設し現在まで代表と監督を兼任（延べ参加者 700 人）、横浜市西スポーツセンターにてミニバスケットボール教室の指導者として 2012. 9～2015. 3 迄実施（延べ参加者 360 人）、横浜カップ全国ゴールデンシニアバスケットボール交歓大会を創設・運営（男子 60 歳＋の大会）後援に神奈川県他（延べ参加者 1600 名）

２. シニア大会では現役選手として海外（WMG など）、国内大会に参加し今後は 70 歳＋の海外大会に参加を目指す

３. 子供たちからシニア世代までバスケットボールを通じて健康、仲間、社会貢献の大切さを伝えたい

並走のラミレスさんと

という内容でした

日本バスケットボール振興会の入会もシニア大会開催のきっかけになっています

史上初めて延期された東京 2020 オリンピック、パラリンピック

私は延期のおかげで幸運が舞い降りました。

競技の観戦を心待ちにしながらスポーツの「する」「見る」「ささえる」が生み出す感動を共有したいと楽しみにしていましたが、１都３県などが無観客となり大変残念な思いで一杯です

最後になりますがバスケットボールと出会えたことに感謝しています

聖火トーチをもって

東京 2020 に ボランティア参加して

植野　紀子

顔写真付きのＩＤカード
（アクレディテーションカード）

賛否両論の中で強行された東京オリンピックにボランティアとして参加しました。担当はＦＩＢＡ（国際バスケットボール連盟）役員の現地サポートスタッフのさらにサポートです。

通常の開催であれば役員の方々の公私に渡ってのお出かけなどのサポートなどがあったのかもしれませんが、短期来日者の行動範囲が宿泊先と競技場のみに限定された為、業務は少なくなりました。競技場にご案内した後は待機の時間も多く、その間に試合を観戦できるという幸運もありました。他のボランティアの人達は朝早くから夜遅くまで業務があったり、灼熱の太陽の下での作業をされたりした方もいたようです。特に３人制会場の青海アーバンスポーツパークは暑かったです。また関係者の移動に使う車のドライバーさんもボランティアが多く、配車予約システムがうまく作動しない、乗るはずの相手が来ない、慣れない道を運転して迷ってしまった（ナビゲーションシステムはあるのだけど使いにくい)、などの苦労もあったようです。そのような大変な方達に比べると苦労が少なく申し訳ないような気持ちです。

ボランティア参加日数ごとに
いただけるピンバッジ

一つ心に残ったのは試合前やハーフタイムにダンスなどをする若者達でした。大勢のお客さんの前で披露するために一生懸命練習したのに無観客になってしまいがっかりしたであろうけれど、それでもとびきりの笑顔を見せて踊る姿に涙腺が緩みました。テレビ中継でもあまり放送されていなかったようで残念です。

今回初めて３人制バスケットボール、３×３が正式種目となり注目されたのは良かったと思います。私自身も詳しいルールを初めて知りました。

そして何と言っても最終日まで試合ができて銀メダル獲得という女子代表の信じられないほどの偉業が最高の思い出となりました。バスケットボールを始めたいという子供達が増えたら嬉しく思います。

東京 2020 オリンピック 感想等の報告

男女バスケットボールの活躍に思いをはせて

［事務局］

コロナ禍ではありましたが、８月８日の閉会式をもって東京 2020 オリンピックが終了しました。東京で開催されたオリンピックは、1964 年以来のことで日本のバスケット界にとっても大きな出来事でありました。また、2020 年は、日本バスケットボール協会が 1930 年９月 20 日に設立されてから 90 周年の節目の年でもありました。

男子日本代表は、ＮＢＡ選手などを交えた今までにない黄金世代で臨みましたが、結果として、残念ながら予選ラウンド敗退となりました。しかし内容的に、随所に日本バスケットのこれからの可能性が期待できる試合でした。

女子日本代表は、予選ラウンドＢグループ２位で決勝トーナメントに進み、準々決勝、準決勝を勝ち抜き、悲願であったアメリカとの決勝戦に臨み、銀メダルを獲得しました。日本の女子代表チームは、スーパースターはいないが、スーパーチームであり、この成績は 12 名の選手の文字通り全員バスケットによる頑張りの結果でした。

このことは、オリンピックにおいて、男女を通じて日本バスケット界初めてのメダル獲得であり、歴史的快挙でした。

日本バスケット界は次の 100 年に向けてのスタートであり、会員の皆さんにとっても東京 2020 オリンピックの男女チームの活躍は新たな思いがあると推察します。

そこで、会員の皆さんのご意見・ご感想などなんでも結構ですのでプラザに掲載したいと考え、ご報告いただきたくお願い申し上げましたところ、多くをご寄稿頂きました。

ここに、発行に間に合いました全文を、お名前の 50 音順に、掲載いたしました。

理事長　渡辺　誠

会員有志のつぶやき

Ｔ．Ｍ．

バスケット楽しく見させていただきました。
やはり世界に通用するには３ポイント・フリースローはもう少し・・・
３ｘ３はスターがいなくあまり面白くなかったです。(男女共)
田臥とか折茂とか女子から吉田とかがいたら面白かったのに・・・

阿部　哲朗

女子チーム　華麗なカットイン、美事なアシスト、頑張るサンドイッチディフェンス素晴らしかった。　ホーバスコーチ米国へ帰国、残念！
男子チーム　次回のフランスオリンピックに期待！

小澤 正博　　TOKYO 2020 オリンピックを振り返って

新型コロナの影響で１年延期されたTOKYO 2020 オリンピックが７月23日に開幕された。

新型コロナ感染拡大の影響で、首都圏に緊急事態宣言が発出され、一部会場を除いて殆どで無観客となり、今一つ盛り上がりに欠けるオリンピックとなったが、出場チームと選手は最高のパフォーマンスを発揮してくれました。

バスケットボールにおいては、世界各大陸代表に加えて世界最終予選で勝ち残った12チームが出場。日本代表は、男子が45年ぶりの出場、果敢に戦ったが世界の壁は厚く、男子は予選リーグ敗退となりました。

世界の男子バスケットは、変わりつつあるように思えます。すなわち、これまでインサイドバスケット中心でしたが、オリンピックではオールラウンドの戦いとなり、大きな選手がオンザコートのどこからでも得点できる体制になっています。

強豪チームにおいては、どこもＮＢＡ選手がいてその力を発揮していますし、オールラウンドバスケットを守るためのディフェンスも相当厳しくなっていて、負けた日本はまだまだフィジカル面の強化が必要と感じました。

またシュート成功確率も他のチームに比べて低く、こちらの方も課題を残しました。

一方女子は、リオ・オリンピックに続いて出場、予選リーグで世界ランキング格上のフランスを大接戦の末に撃破して、グループＢで２位となり決勝トーナメントへ進出しました。

決勝トーナメントでは、準々決勝でベルギーに辛勝すると、準決勝では予選でも勝っているフランスと対戦して圧倒、日本はオリンピック史上初めてとなる決勝へ進んだのです。

決勝戦は世界の強豪でオリンピック６連覇中のアメリカに挑みましたが、高さとパワーに勝るアメリカには及ばず、銀メダルに終わったがその健闘ぶりを大いに称えたいと思います。

日本は2011年から日本代表チームのコーチにトム・ホーバス氏を起用、特にホーバス氏がリオ・オリンピック以降ヘッドコーチに着任してからは、オリンピックで金メダルを取ることを目標に、世界一の練習量を誇り、選手たちも一丸となって厳しい練習に耐え、現在の女子代表チームができあがりました。

すなわち３ポイントシュートの成功率アップと強力なディフェンスの確立です。センタープレイヤーが３ポイントシュートを平気で決めるという、オールラウンドバスケットもできるようになり、基本的には小さい日本が大きな相手に勝ったことで証明されました。

欧米に比べて平均身長が10ｃｍ近くも小さい日本が、史上初めてオリンピック決勝戦で金メダルを目指して戦った歴史は、これからの日本女子バスケットボール界に大きな大きな指針を与えてくれました。決勝戦で負けた後でも、まるで勝ったかのようにはしゃいでいた日本チーム、そのすがすがしい姿に金メダルをあげたいですね。

（振興会副会長）

鹿子木　基員

アメリカとの決勝は大部分を熱心に見ました。ペンシルバニア大出身のトム・ホーバスＨＣの指導と選手の動きがシュートの成功率を含めてよかったと思いました。アメリカは大きいから及びませんでしたが、次回に楽しみが残りました。
高木主将以下良くやりました。投げるシュートの成功率が高かったのが良かった。細かい点では、表現が難しいですが、シューターのチャンスを創ったパッサーが最後まで自分のマークを自分に引き付けていたプレーが、ホーバス HC との連携の成果かな、と思いました。
ペンシルバニア大学は名門で、私が 1966 年に渡米した時、同期入社のドクターが会社派遣で留学していたので、宿舎を訪問、秋の落ち葉を踏みながらキャンパスを散策した思い出があります。

川戸　政角

トム・ホーバスＨＣの指導力が素晴らしい代表チームでの厳しい練習が銀メダルにつながったのでは　　今でも、信じられない快挙　おめでとうございます

兒玉　幸長

女子の快挙は、日本中にバスケが評価され、ＦＩＢＡ処分時の日本バスケのイメージを一新してくれました、有り難う。
男子も世界の壁に近づく「歴代最強のチーム」でした、今後、大いに期待できます。
Ｂリーグが男子強化に繋がっていますね。
前回東京五輪は「東洋の魔女」、今回は「暁５」と言う人も現れる程、日本女子の活躍は素晴らしく、日本の全てのバスケ人が感動したオリンピックでした。
2030 年のＪＢＡ設立 100 周年には世界に冠たる日本男女チームであること祈念します。

小山　ひろみ

2020 東京オリンピック男女バスケットボールチームの試合は
「バスケットボールで日本を元気にする」という協会のスローガンにマッチした試合で多くの方々に感動を与えたと思います。ここまでに至る道のりは選手各々の努力もありますがそれを支える協会スタッフと多くの皆様のご支援ご尽力の賜物と思います。特に女子の銀メダルはスーパースター不在の全員バスケを展開しての、トム・ホーバスＨＣの采配はすばらしかったです。　この感動に元気をもらってこれからもバスケを愛して自分ができるバスケでの社会貢献をコツコツ続けていきたいと思います。

今野　庄　　東京五輪・男女バスケットの活躍は、すごい

東京五輪での男女バスケットの活躍は、本当に「すごい」の一言。特にも、高さで劣る女子が銀メダルを獲得したことは、大変感激・感動し、夢を見ているようであった。（私も身長が低いので特に）また、トム・ホーバス監督の優れた指導力も光っていたと思う。近代五輪が始まって 125 年。バスケット競技が採用されてから 85 年。日本バスケットの歴史も、着実に進歩しているようですね。ただ、コロナ禍で行われた今大会は、公平な条件で競うという観点や公正・平等をうたうスポーツの精神にてらして、どうだったのか。本当にフェアな大会になったのか、等の疑問が残ったが・・・

（岩手県）

佐々木　政治　　TOKYO 2020 オリンピック　男女バスケットの活躍について

今回のオリンピック男女バスケットについては、男女で明暗が分かれることになった。男子は悲願の１勝を挙げることができず予選敗退、一方女子は男女通じて初のメダル獲得それも銀メダルという快挙を成し遂げた。
男子も健闘したことは間違いないが、客観的な指標からみて今回の成績はどう評価されるのか感想を述べたい。

下記の表は、今回の成績結果とメダル国のＦＩＢＡランキングを表したものである。
当該ランキングは今回のオリンピックの成績を反映してＦＩＢＡが８月１２日に発表した最新の世界ランキングである。
男子は、オリンピック出場を果たしたことから、42 位から７ランクアップして 35 位、女子は、銀メダル獲得を反映して 10 位から２ランクアップして８位となっている。
ＦＩＢＡランキングは絶対的なものでないにしろ、その実力を正確に測る指標の一つであることは間違いない。
これをもとに今回の男女の成績を見てみると、男子は 35 位であるから参加国 12 チーム中 11 位という結果は、残念ながら実力通りであると言わざるを得ない。ちなみに、今回予選を通過して、ベスト８に勝ち上がった中でランクが一番低い国はドイツで 11 位である。
一方、女子は 10 位のランクで銀メダル獲得はまさに快挙といえるものだ。これは自チームの実力を正確に認識し、勝つための戦略として、40 分間にわたりスピードあふれる攻守を展開する、得点源として全員が３ポイントシュートで得点するということをチーム全員が共有し、トム・ホーバス監督の下で世界一という猛練習を積んだ賜物である。決勝相手の米国のベテラン、スー・バード選手が対戦後、日本チームに最大限の敬意を表したいとコメントしたのもその成果を物語っている。

パリオリンピックまであと３年である。男子チームについては自己の強み、弱みを今一度点検し、まずは参加チーム 12 か国に常時入れるようＦＩＢＡランキング 20 位以内を目指し頑張ってほしい。女子チームについては、まだアメリカとの実力差は依然として大きいが、それを克服し次回は金メダルを目指し活躍することを願っている。

（表）東京 2020 オリンピックバスケットボール成績結果

	男子	女子
金メダル	アメリカ（1）	アメリカ（1）
銀メダル	フランス（5）	日本（8）
銅メダル	オーストラリア(3)	フランス（5）

（注）（　）内 FIBA 最新世界ランキング

2021 年 8 月 17 日
（振興会副理事長）

佐室　有志

東京オリンピックのバスケットボール男女のゲームを自宅テレビにて、何試合か観戦しました。　男子は予選ラウンド敗退で女子は銀メダルの結果でした。
女子の健闘はアッパレ。男子は無残な結果でした。男子の強化に知恵が必要ですね。

（振興会顧問）

鷺沢　秀夫　　さいたまスーパーアリーナでの Olympics

待ちに待った 2020 東京オリンピックが開かれた私の住む埼玉で半世紀以上続けている私のスポーツバスケットボールが開催会場。延期される 1 年前から日程別に入場券を購入予定でしたが新型コロナ騒ぎで無観客に・・あぁ残念・・しかし開会後は国内 TV・BS・埼玉 UHF で多くの種目が放映された。特にバスケは男女注目での影響が有り競技放映が録画を含め満足できる自宅観戦が可能になった。特に女子の準優勝は感動であった。埼玉県東上線沿線の朝霞市出身の本橋選手、川越市出身の宮崎選手の活躍に身震いした。近代オリンピック 32 回の歴史の中で、世界大戦外で世界疫病緊急事態を乗り越えた開催は後世に残す素晴らしい結果、各人への報奨金 500 万円は決して多くはないと評価したい。

島本　和彦

圧倒的な身長差の中でプレイの精度を上げてたどりついた女子のメダルは金より良い（銀）結果と考えたいです。男子は渡辺、八村の常に中に攻めこむ形がようやく出来ました。それによって他の選手が生きるという現象が生まれました。日本にいきなりドンチッチやアデトクンポの様な選手は湧いて来ません。女子の様に精度とスピードを上げるしか方法はないのではと思っています。

清水　英邦

此度の成果はディフェンスの強さにあったと思う。

そこで　武蔵高３年次（1957 年）のインターハイを思い出していた。
この大会はオールコートゾーンプレスで初戦から決勝までのフルタイムを戦った。
体格、運動能力の劣るチームがディフェンスを頑張れば何とかなった大会でもあった。
尚一緒に参加した女子のお茶の水付属高も同じ戦法だった。
両校のコーチは畑龍雄先生である。

白谷　慶子

オリンピックという最高の舞台で素晴らしいパフォーマンスを発揮し見事銀メダルを獲得した。
AKATSUKI－FIVE の日本女子チーム長い間バスケットに関わってきた者として、最高の場面を見せて頂き感謝です。感動をありがとう！
そして、さらなる飛躍を期待しています。

鈴木　健雄　　男女バスケット活躍について

女子のばく進は感動的だった。
「高さのミスマッチ」は、往々にして体格的に劣後するわが国側に不利な状況という暗黙の了解が有ったと思うが、これが「スピードのミスマッチ」としてわが国に有意な状況の意で使われる場面が有ったことは目から鱗だった。今後は、戦術的かつ戦略的に、３ポイント・シュートの位置づけが水平方向の Ｆｏｒｍａｔｉｏｎ と絡めて変化して行くと思われた。また、渡嘉敷選手を欠く中で、特に高田選手、馬瓜・オコエ選手らの敢闘に拍手を送りたい。
なお、1972 年ミュンヘン五輪時に筆者は高校生で、バスケットの試合を状況の把握が難しいラジオ中継で聞いたことを思い出す。
この時、チームの順位は全体で下位であっても大会の得点王になられたのが日本鋼管に居られた谷口正朋さんだった。
本年ＧＷに逝去されたとの報道が有り、ご冥福をお祈り申し上げる。

高田　洋子　　驚きの銀メダル

　バスケ女子には、驚きの驚き、決勝戦の日は、食事も寝ることすら忘れ、緊張の１日でしたが結果ＴＶ観戦も手を合わせ祈る思いで結果あまりの感激に涙が・・・人生こんなに感動することが・・・年老いて歩くことも走ることも日々の生活も少々難ありの状態！あと少し良く伸びることにしよう、本当に本当にこんなにうれしいことがあっていいのか！自分に問いかけこの喜びをどのように伝えてよいのかー 夢のまた夢 ―本当にご苦労様――「ご褒美」も――「祝賀会」があれば是非ぜひ参加したい。益々の発展と健康を祈り、努力は無駄にならないことー 感謝です。

多胡　英子

この度の女子バスケットボールの銀メダル獲得は本当に夢の様です。
我々昭和 24 年生まれは大学３年生の時まで、オリンピックの種目に女子にとって苛酷なスポーツと言われて ありませんでした。そして今回小さな日本人が諸外国と対等に闘えた。　本当にうれしいです。バンザーイ！

多胡　英子　　２回目の東京オリンピックを終えて

１回目の東京オリンピックは、中学３年生だった。白黒テレビをカラ―テレビに変えて、よりリアルに見ることが出来た。しかし、受験勉強中の時期で思いっきり楽しむことも、現地で見ることも出来なかった。当時 15 歳。

今回は、コロナ禍で、現地で見ることは出来なかったが、テレビでゆっくり思いっきり見ることは出来た。

15 歳の頃は、軟式テニス部だった。顧問の先生は素人であまりやる気がなく、私は「先生！県大会に行きたいので部活に来て特訓して下さい！」と、職員室に行く様な威勢の良い生徒だった。

しかし、テニス専門の先生が居る学校に地区大会で敗れて最後の夏の県大会には出られなかった。私は悔しくて、人数の足りない陸上部に助人として参加し、走り幅跳びで、県大会に出場した。

走り幅跳びは、安中中学校の新記録だったので、オリンピックを見ながら、庭に穴を掘り、勉強の合間に、走り幅跳びの特訓をしていた。勉強より、運動していないと満足出来ないという自分を感じていた。高校へ行ったら、思いっきり、運動しようと思った。

高校合格後は、いろいろ迷ったが、私の溢れるエネルギーを満たしてくれるバスケットボール部に入った。長距離も強かったが、球技の方を選んだ。

すっかりバスケットボールに魅了され、学業成績はどんどん下がり、親にはいつもお説教をされていた。高２で体育の先生になると決めた。

日本体育大学に進学し、バスケットボール部で頑張っていたが、私の得意なバスケットボールとマラソンは、女性には厳しいスポーツということで、オリンピック種目になかった。

３年生になった頃、オリンピック種目となった。後輩の生井恵子選手が初めてのオリンピック選手となり、忍者ディフェンスや小さな巨人と言われ、大活躍した。

その後、日本の女子バスケットボールは、諸外国に比べ背が小さい選手が多く、大きい選手は動きがついていかず、低迷が続いた。

それから今日に至るまでに、日本人の体格がとても良くなって来た。フィギアスケートの浅田真央選手の様に、足が長く、背もすらっとした、欧米に負けないスタイルの選手が増えてきた。

私は前から正座が良くないと思っていた。洋風な椅子の生活と食事、科学的で理論的なトレーニングにより、日本人の体格が良くなり、大きくても俊敏な選手が増えてきた。

それが、今日の日本人の活躍につながっている事は間違いない。

次に今回の結果を見て、私の考えている良い結果を出すのに大切な事の順番は、①心②知恵③技能という考え方が正しいと再認識した。

まず自分の「心」を整えなくては勝てない。「心」を充実させるには、良き指導者・良き家族・良き仲間が必要である。

レスリングの川井梨紗子選手と友香子選手の姉妹・柔道の阿部一二三選手と詩選手の兄妹などからも分かる様に、「心」が強い絆で結ばれている事が大事。一人で戦っているのではなく、常に心強い応援を感じながら金メダルを目指し、見事に勝ち取ったのである。

③の技能が一番と思っている選手・コーチ・協会の役員は反省しなくてはならない。

①の「心」が充実していない選手は、技能が高く期待されていても、大舞台でよい結果を出すことはできない。それが顕著に表れた大会だと思う。

女子バスケットボールの快進撃は、トム・ホーバスヘッドコーチの厳しい中にも本当の優しさがある指導能力と、頑張れば金メダルが取れるのだという事を思い込ませる指導方針が第一の要因だと思う。

第二の要因は、191ｃｍの圧倒的エース渡嘉敷来夢選手の前十字靭帯断裂による離脱。エースの離脱により、高田真希キャプテンを中心に、12 名全員による「全員バスケ」という心構えが出来た事。それぞれが、自分のやれることを精一杯やり、助け合って励まし合い、一つの目標に向かう「強いチームワーク」が生まれた。

第三の要因は、昔には考えられない程、背の高い選手が増え、大きい選手も俊敏に動き、全員チャンスあれば３点シュートを打ち、入れる能力がある事。素晴らしい進化だ。

今回のオリンピックは、コロナ禍で、反対もあった中で行われた。

しかし、世界は SDGｓ（2030 年に向けて持続可能な開発目標）に向けて動き始めている。スポーツが持続可能な開発の手段として、平和・教育・ジェンダー・若者の能力強化・包摂性を実現するための重要な鍵とも言われているのである。

また、ＬＧＢＴＱ（セクシャルマイノリティー全般を表す言葉）が表す様に、多様性の容認・古き固い考え方の排除が行われた未来に開かれた大会だとも感じた。

この時代の変化についていけない古き人々は、醜い行動と失言により失脚となった。

どんな時代でも、４年に一度しかないオリンピックに命をかけている人々がいることも忘れてはならない。その時がピークで、その時機を逃せば、輝けないこともある。

国と国がいがみ合っていても、スポーツの選手は、互いを称え合い、素晴らしいスポーツマンシップを随所で表現している。この愛すべきスポーツマン・スポーツウーマンを世界中で温かく見守って育てて欲しい。

高い技術と能力があるのに、国を挙げてのドーピングにより、母国の名前で出場できない選手たちは、なんと可哀そうな事だろう。

また、国の代表が母国を捨て、亡命しなくてはならないとは、どういう事だろう。

醜い人々の思惑で、素晴らしい選手たちを汚さないで欲しい。

オリンピックは平和の祭典であるべきだ！！

この後行われるパラリンピックも、選手・関係者が満足できる大会となることを祈念し、精一杯応援したいと思う。

ファイトー！！　　2021 年８月 13 日

都﨑　修男　　東京 2020 オリンピック　男女バスケットの活躍について

女子の銀メダル獲得おめでとうございます。

プラザ 82 号にも書いた通り前回の東京オリンピックではまだ女子バスケは正式種目ではなく、女子バスケ関係者の正式種目採用への切なる希望を込めて日本チーム（東芝・興銀）によるデモンストレーションゲームを実施するのが精いっぱいでした。再度東京で実施された今大会では、日本の女子がメダルを獲得するという快挙を成し遂げ深く感動しております。

前回のデモンストレーションゲームの時に身長の低いチームが勝つにはアグレッシブなディフェンスと早い攻めしかないと思って、東芝はフルタイムのオールコートゾーンディフェンスを敷いて激しい攻守を展開したのですが、今回ホーバス監督は同じような考え方ではるかに洗練されたチームプレイを見せてくれたのも大きな喜びの一つです。
日本のチームは今後も身体的に不利な条件を背負わなければならないでしょう。そのハンデを克服しさらに高みを目指すには、今回のような激しい動きとチームプレイの向上が必須です。たゆまぬ努力を期待します。
男子については前評判は良かったものの、やはり直前に参加したＮＢＡ選手等海外の選手頼りでは十分なチームプレイはできず総合力は発揮できませんでした。
今後のオリンピックをはじめ重要な国際試合でＮＢＡのスケジュールに縛られるこれら選手に頼るのは危険が大きすぎます。
やはり国内の選手を中心に反復練習でチームプレイを組み立て、海外の選手はプラスアルファとして考えてゆかなければ、日本チームのレベルアップははかれないでしょう。
その場合中心になるのはトップリーグであるＢリーグの選手だと思いますが、Ｂリーグでは毎年外国籍選手の比重が増し、特にインサイドで日本人の大型選手の出番は限られたものになっています。
今年のＵ１９ワールドカップにはＪＢＡが打ち出したサイズアップ・ポジションアップの方針にこたえる編成で臨んだと聞いておりますが、これらの選手を育成できる環境を整備することが男子バスケを強化する最大の課題だと思います。

（振興会監事）

徳永　寿美

1964 年以来の東京オリンピックは世界をゆるがすコロナ禍の中、男女揃って出場、女子が身体能力の全てを駆使して銀メダルを勝ちとった。技術のみならず選手ひとりひとりの心のつながりが熱く燃えているのが伝わってきました。戦ったあとの選手の笑顔が最高！！
世界でたったひとつの銀メダル心から拍手を贈ります！！
おめでとうございます♡　（ありがとうございます）

並木　浩

女子の快挙に比べ男子の期待はずれは？
コーチングスタッフの責任であり、Ｂリーグの取組みも改善する責任がある。
個々にはプロ選手としての自覚不足か？

シューターとしての責任を全う！！
未完成ながら馬場の成長を期待する！！

羽佐田　恭正

コロナの感染が拡大し、東京オリンピックは開催するのか、否か、議論が分かれていました。

併し、予定通り、ただ、無観客での開催となりました。頑張って来た選手諸君は気落ちしたものと思います。いざ開催で世界中から多数のアスリートが参集してくれました。

その中でのバスケットボール。男子は今までにない長身者を選び、しかもＮＢＡで活躍しているメンバーも加え、好成績を期待しましたが、３試合全敗。世界の壁の高さに抵抗出来なかった。やはり、事前の準備が不十分では、よい結果を得られないことを痛感した。

驚くべき成績は女子！期待の渡嘉敷を怪我で欠いたが、高田がキャプテンとして大活躍、準々決勝ベルギー戦、あと 16 秒の林の３ポイントは、大記録の伏線となった。準決勝でフランスを破り、アメリカとの決勝戦。さすがに身長差が大きく残念な結果になりました。

女子の好成績は今後の育成に大きな力になることと期待しています。

（振興会理事）

宮﨑　和子　　「東京オリンピックバスケット活躍について」

こんにちは。遅くなり、すみません。

東京オリンピックバスケットボールは、本当に感動しました。特に女子は、ベルギー、フランス戦、決勝のアメリカ戦までいき、銀メダルが取れたことに、テレビ観戦して喜びました。小学生のチームから、高さの無いのをフォローするには、スピードとパスの正確さ、シュート力と言い続けても勝てなかった。それが、女子チームは、成功して決勝戦に進んだことは、理論的に正しかったと証明されたのかも知れない。選手の皆さんは、きつい練習によくがんばってきたと思います。三屋さんが、金メダルと同じ報奨金にしたことは、賛成です。あと３年後は、どのようになってるのか、楽しみです。選手の皆さんに、おめでとうございます、お疲れさまでした と言いたいです。

諸山 文彦　　アカツキ ファイブ（愛称）への感動 !!

●期間中は、TVを見て感動、興奮し、終了後もマスコミが連日取り上げ、選手へのインタビューも多々。バスケットボールがメジャーになり、一般社会にも浸透した。この活躍は大きくアカツキファイブの銀メダルに乾杯！！

●特に、2008年８月～2011年３月までの２年８ヶ月間、バスケットボール協会の理事・強化本部長を仰せつかった関係から、今回活躍した選手12名の多くは、ＮＴＣでの合宿やアジア、世界選手権で行動を共にしていたこともあり、選手の活躍が待ち遠しく、大変嬉しいものであった。

●連日、ＴＶを見ての感想に加えて、強化本部長就任期間中とそれ以降一定期間の主要な大会のデータを調べて、以下、その戦績と感想を記載していきたい。日本女子の躍進は、2008年に始まったと言って過言ではない。

１．女子バスケットボール 2021 の主要な戦績と感想

（１）戦績

第１戦フランス戦	最後まで接戦が続いたが、残り１分で高田のドライブと長岡の３点シュートで接戦を制し、74 対 70 で勝利。この１勝は大きく波に乗れた原因となる。
第２戦アメリカ戦	第１Ｑは 30 対 28 でリードするも、第２Ｑ以降は高さを生かした攻撃を止まられず、69 対 86 で敗れた。
第３戦ナイジェリア戦	見事な３点シュートで勝利。確率は 19/39（49%）で、スコアは 102 対 83。３点シュートの得点が 57 点・57%。３点シュートの確率と得点割合は、信じられない驚異的な数字。
準準決勝ベルギー戦	最後まで大接戦が続いたが、残り 16 秒に、町田からのパスを受けた林が、１フェイク後、３点シュートが成功、勝利。シュート確率は、日本 34/64（47%）、ベルギー33/65（51%）で、ベルギーが３点上回ったが、フリースローが 12 対８の４点リードで 86 対 85 の１点差の勝利。残り時間を考えた見事なコンビネーションとなった。
準決勝フランス戦	町田が 18 アシストでオリンピック新記録。得点は 87 対 71 で 16 点差。３点シュートの確率が、日本 11/22（50%）対フランス 7/24（29%）で 12 点差。本数は少ないが、ナイジェリア戦の 49%と並んで最高確率。
決勝アメリカ戦	７連覇を目指すアメリカが、90 対 75 で勝利したが、日本は銀メタル。身長が 176 対 186 で 10 ㎝の差があり、特に 203 ㎝のプリトニー・グナイダーが 30 得点し、今大会ＭＶＰのベリアナ・スチュアート等を抑えきれなかった。銀メタルは史上初の快挙。国際大会での銀メタルは、1975 年にコロンビアで開催されたワールドカップ（旧世界選手権）以来 46 年振り２度目。

（２） 感想　①今大会、３点シュートは林、宮沢を中心に、全員が確立の良いシューターであった。インサイドでも、身長の低い高田、赤穂等が頑張り得点を繋いだのが大きく、更に激しいディフェンスを最後まで続けたのが勝因となった。

② 渡嘉敷を怪我で欠いてからも、トムヘッドコーチは、金メダルと言い続けており、選手もそれを理解して、実施したのは立派。全員バスケットボールの推進も見事。

③ 今回、ドライブインからの３点シュートは確立されたことから、今後、更に、世界のトップグループを維持するには、ハイポスト（渡嘉敷が得意）等インサイドからの得点をどう増やすかが課題となる。

２．U-18 アジア選手権の初優勝

① 1970 年に初めて開催されたＵ－18 は、準優勝や３位が定位置で、中国、韓国の壁を破ることが出来なかったが、2008 年に、インドネシアのメダンで開催された第 19 回大会で初優勝を飾った。

② 予選ラウンドで韓国、中国を破り１位で通過し、準決勝でチャイニーズ台北に 91 対 53 で勝ち、決勝で中国に 90 対 87 で勝利。

③ 団長として参加した私は、現地での解散会で以下の挨拶をした。「この優勝は日本がこれからアジアは勿論、世界へ羽ばたく突破口になるもので、日本に帰ってからも目標を大きく持って、普段の練習から励んでもらいたい。」

④ 渡嘉敷や間宮等優秀な学校から派遣された優秀な選手達で、海外の地インドネシアでも明るく物おじしない、日本の層の厚さを感じるものがあった。

⑤ 2010 年以降は、準優勝が続いているのは寂しい限りである。

３．Ｕ－16 アジア選手権の優勝とU-17 世界選手権の４位、５位

（１）Ｕ－16 アジア選手権優勝

① 2009 年に、インドプネーで第１回のＵ－16 アジア選手権が開催され、日本は準優勝で、2010 年にフランスロデズ／トウールーズで開催されたU-17 世界選手権に参加。

② 2011 年の第２回選手権に、日本は初優勝し、2012 年にオランダアムステルダムで開催されたU-17 世界選手権に参加した。

（２）U-17 世界選手権で４位、５位に入賞

① 2010 年の世界選手権に参加した日本チームは、６チームに分かれてのリーグ戦でトルコ、カナダに勝利、アメリカ、フランス、ロシアに破れて２勝３敗で準準決勝に進出。ベルギーに破れて５－８位決定戦でロシアに勝利し、オーストラリアにも勝って５位。

② 世界選手権は、三好の好リードと長岡、宮沢の攻防による活躍により、初めての世界大会で５位に入賞したことは称賛に値する。

③ 長岡は３点シュートとインサイドプレーの両方で活躍したが、宮沢はインサイドプレー専門で活躍。本人曰く「日本人とプレーするより、外人とプレーするほうがプレーし易い」とのコメント有。見事なインサイドプレーであった。

④ 2012 年にオランダアムステルダムで開催された第２回世界選手権では、４位に入賞し今日までの最高。宮崎、馬瓜エブリン、赤穂が参加しており、日本の女子が世界に羽ばたきだした。

４．アジアカップ（旧アジア選手権）初の４連勝

① アジアカップでの優勝は、1970 年に、尾崎正敏監督の下、忍者ディフェンス、マッハ攻撃により初優勝して以来で、2013 年に 43 年振りに２回目の優勝。
韓国、中国を破り、世界選手権の切符を手に入れ、ＭＶＰに渡嘉敷、ベスト５に間宮、吉田が獲得。

② 2013 年から、2019 年まで、日本は４連勝中で、2013，2015 年は内海コーチ、2017 年から、トムコーチ。今大会のメンバーが大半参加しており、強力な布陣となっている。女子の強い所は、これら強化体制に一貫性があることと思われる。

５．東京オリンピック男子 2021 年

（1）戦績

① 日本は、ＮＢＡプレーヤー八村、渡辺の２人を擁し、史上最強と言われており、また、大会前の強化試合で、強豪フランスを破って、本大会に期待が持てたが、残念ながら 12 チーム中 11 位で終了した。

② 第１回戦スペインは、世界ランキング２位。八村 20 点、渡辺 19 点と善戦したが、前半 20 点差のビハインドが大きく、後半、渡辺、金丸の３点シュート等でおいあげたが、77 対 88 で敗れた。

第２回戦スロベニア戦は、2019 年ＮＢＡ新人王ルカ・ドンチッチを擁する世界ランキング 16 位以上の実力があるチームで、81 対 116 の大差で敗れた。特にゴール下を蹂躙され、２点シュート率が、43％対 68％と大きく差が開いた。

第３戦アルゼンチン戦は、勝ったチームが予選突破という重要な１戦で、世界ランキング４位に 77 対 97 で３連敗。特に帰化選手、キャビン・エドワーズが第２戦で肩に負傷を負い欠場したため、八村、渡辺へのアタックが激しく、得点力が低下した。

（2）感想

① ラマスヘッドから事前に「一番強化の必要があるのがディフェンス」とのコメントがあった。フランスとの強化試合では、激しいディフェンスや、動きのあるオフェンスが機能していたが、本番では、ゴール下の大きな選手にボールを送られて楽なシュートを打たせたり、選手個々が動いてスペースを作ってシュートに結び付けることがなかったのは残念。

② 日本の平均身長は、196ｃｍと大きくなり、ＮＢＡ八村、渡辺、オーストラリア馬場を初め、比江島、田中、金丸等優秀な選手が多くなって、チームのレベルは確実に上がっているが、女子のように、長い期間、一緒に練習、試合に取り組んで選手個々の特徴を生かしたり、融和を図ったりまで熟成されていない感じがする。

③ 今後は、先ずは、アジアでの常勝体制や一貫性ある強化体制を築きあげることが重要になると思われる。是非、次回のフランスでは、日本の強化方針を確立して、初のベスト６入賞を期待したい。

６．1964 年東京オリンピック

① 男子は、1936 年ベルリン以降、過去に６回オリンピックに出場しており、今回で７回目。1956 年ベルボルンが３勝４敗、1964 年東京が４勝５敗で何れも 10 位（16 チーム）が最高。

② 私の出場した東京オリンピックは、吉井監督、武富コーチ、斎藤マネージャ指導の下、予選リーグで世界ランキング４位のイタリア初めカナダ、ハンガリー、フィンランドを破り、ソ連、メキシコ、プエルトリコ、ポーランド、オーストラリアに敗れた。誠に残念だったのは、メキシコ戦で、相手の選手が前半終了間際にゴール下から投げた超ロングシュートが入って、１点差で敗れたのは、今でも思い出す。

③ ８位入賞が目標であったため、残念な結果になった。そのため、今回の男子には６位入賞を期待したが、次回のフランスでは、是非、期待したい。

④ 私事で恐縮だが、オリンピック始まる前に、米国のピート・ニュウエルコーチから「オリンピック終了後、米国カリフォルニア大学バークレー校に留学しないか。」とお誘いを受けたが、丁度就職の時期と重なったため、相談をしたが、残念ながらお断りをした。実に残念なことであった。

⑤ 今後、日本が強くなるには、やはり、多くの選手が海外の強い選手にもまれ乍ら逞しい攻走守そろった選手に成長する必要があると思う。期待したい。

以上、ご意見、ご批評を頂けますと幸いです。

（振興会理事）

山田　直秀　　女子の銀メダルについて

１．　ディフェンスではオールタイムプレスを徹底したこと
このため培われた体力・精神力特にダブルチームからのローテーションの速さとビジョンはすばらしく、アメリカ人コーチに敬意。

２．　オフェンスではディフェンスからの切り替えの早さとゴールから離れた位置からの攻撃（スリーポイントショット）を発想したこともすばらしい。

３．　特にベスト５に選ばれた町田選手のドリブル技術とビジョンの広さはバスケットの真髄といえる。ドリブルは小さい頃からの指導が大切であり、その意味で旭川のミニ、中学の指導者に感謝。そしてそれを花咲かせ高校二冠を達成した札幌山の手高の上島氏に敬意を表する。

４．　このシステム、技術で今より平均５㎝大きくなれば必ずアメリカに圧勝する日も来る。

（帯広市）

油井　康　　バスケット選手の原石を探す努力を

渡辺選手の３ポイントシュート、女子の高田選手３ポイントシュートを見ながら、70年前を思い出した。

高校時代、年２回３年間コーチに来てくれる、東京教育大の選手というより、日本のトップセンターだったあの糸山隆司さんと、教室に机を並べその上に畳を敷いただけの粗末な部屋で高校生と一緒に合宿した早朝、彼はいつのまにか起きだしてシューティングをしていた。当時は無かったが３Ｐシュートエリアからだった。お手伝いできると思い、毎朝、あわてて起きだしても、既に終わって汗を拭いている姿を見るだけだった。

東南アジア選手権に日本代表で出場したころだったので、外国選手との対戦で、必要性を痛感したと彼は言っていた。

インサイド、アウトサイドとに分かれて練習し、長身選手のミドルシュート、ロングシュートの練習はしなかった時代が長く続いて、ゲームでセンタープレイヤーが長いシュートをすると怒りつけるコーチも多くいたはずだ。かくいう私も同じ過ちを繰り返していた。

インターカレッジのクォターファイナルで敗れ、翌日の決勝戦の後に行われた東京教育大学対アメリカキリスト系５大学選抜とのゲームで、彼はアウトサイドのシュートをしなかった。

考えると、打つフォーメイションが無かったか、シチューションを作ってくれなかったかである。

ともかく、70年の歳月を経過した今、あの糸山さんの思いが実現したのだ。

後のことであるが、中学生の川村拓也選手のキラメキに目をつけた中村和雄さんが、彼の進学する盛岡南高校の金子力監督にセンターにせずにアウトサイドでプレーさせることを要望した。金子監督は少し小さい選手をセンターにし、彼を素晴らしいシューターに育てあげた。

ダイヤモンドの原石を捜し出す作業を怠ってはならない。

（岩手県）

吉田　公子

男子は八村、渡辺、馬場が加入してベスト８にはいけると思ったのですが残念です。
女子は銀メダルおめでとう！！
各試合後の高田キャプテンのインタビユーの最後に「よっしゃ！」と云うかけ声とあの笑顔、最高ですね。
スタメン以外の人の点数が参加チームの中で日本が一番多かったそうですね。
アメリカ戦でも全員が点を入れている本当に全員バスケだったのですね。
背の高さ、つくづくと感じました。あんなにシュートカットされるなんてめげちゃいそうですがそれに負けることなく頑張って15点差におさえたのはすごいですね！
表彰式の後の３ヶ国のチーム全員の集合写真いいですね。
コロナで会えないけど試合が終わると電話でながながとおしゃべりしました。

吉田　寿仁

今回のオリンピックは、今までにない大きな願望と期待を持って全試合をテレビ観戦しました。

男子については、やはり世界ランクどおりで、番狂わせの少ないバスケでは、たとえ善戦しても勝には結びつかない現実を見せつけられました。勝つには、八村、渡邊クラスが４人以上と 210CM 超えのセンタープレーヤーが現れること、イージーなシュートミスをなくすこと、タフショットを決めきれる能力を身につけることが必要と感じました。

女子については、アメリカ戦以外はターンオーバーが少なく、シュート確率も高く期待どおりの結果だと思います。決勝のアメリカ戦は、決めてほしい場面でのシュートミスで日本のペースにならず、逆にアメリカは憎たらしいほど確実に得点を重ねてリズムを手放さなかったのが、勝敗を分けた要因だと思います。あと、宮沢と林へのマークが厳しかったのは分かりますが、40 分間の内に何か別の打開策があったのでは。シューターに打たせる手が見いだせれば、もっと違った展開になったのではいかとの思いがありました。

皆さん同様な感想をお持ちだと思いますが、今後の日本バスケに期待が持てる試合で、ワクワク感を抱かせるオリンピック、ありがとうございました。

（岩手県奥州市）

米田　由美子　おめでとう日本女子バスケットボール銀メダル !!

バスケット！！観てる！？　６日フランスとの対戦中、兵庫の友人からメール。
丁度 41 : 34 で勝って後半になるところ。「すごい↗↗がんばれー」「応援しましょう！」と友人、この時ご主人が陸上の観戦で本人は観たいのに観られず「涙！！」のマーク
高校時代のバスケの友人との久しぶりの会話をオリンピックの女子バスケットの試合で楽しんだ。
いつしか、60 年若返り自分達もバスケをしていた。
ありがとう女子バスケットチームの皆さん！！

（都立北園高校出身　第一生命バスケット部）

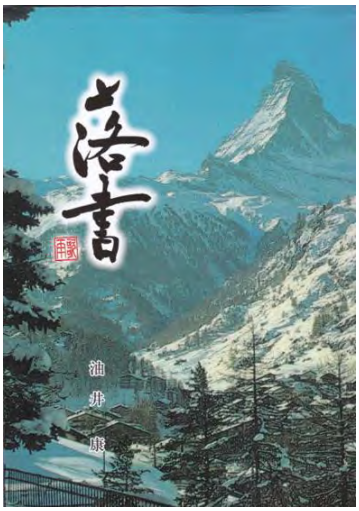
渡辺　時男

女子バスケチーム一丸のディフェンス、オフェンスはすごく良かった。
センター不在で危機感が増し団結力が強まった！！
町田選手のドライブ・パスが抜群だった！！
中学・高校生等に夢と行くべき道を教えてくれたのでは？

油井 康 さん　おめでとうございます

「第 16 回日本スポーツグランプリ」受賞

［事務局］



昨年、８月に油井さんから振興会にご著書「落書」が送られてきました。雑文集と称する「落書」にはバスケットボール歴 70 年、スキー、登山など豊かな人生歴などが語られています。油井さんは岩手県シニアチームの中心選手であり現役の選手時代も岩手県の代表選手としてご活躍していたことは知っていましたが、この度はその 70 年に渡るバスケットボール歴について詳しく知る機会になりました。

「日本スポーツグランプリ」は、公益財団法人日本スポーツ協会（旧日本体育協会）が「長年にわたりスポーツを実践するとともに広く国民に感動と勇気を与え、顕著な功績をあげられた個人またはグループを表彰する制度」として 2006 年（平成 18 年）に制定されたものです。

過去にバスケットボールの諸先輩に受賞者がなく残念に思い、代々木シニア交歓大会に参加していた神戸シルバーキッズチームの「日笠　孜」さんに「日本スポーツグランプリ」の内容をお話ししたところ、札幌在住の「在間　弘」（アリマ　ヒロシ）先生を紹介されました。その後、在間先生は、第６回スポーツグランプリを 2011 年山口国体で、日笠孜さんは、第８回スポーツグランプリを 2013 年東京国体でそれぞれめでたく受賞されました。

油井さんに「日本スポーツグランプリ」の内容を説明、受賞に至る流れなど説明させていただき、その後、書類提出を経て、本年７月に「第 16 回日本スポーツグランプリ」（三重国体）の受賞に至りました。

油井さんは、昭和 10 年８月生まれ、岩手県立水沢高校入学後バスケットを始め、昭和 27 年県大会優勝、地元　酒田市で開催されたインターハイに参加するなど活躍。その後、母校のコーチ、ミニバスケットボールの指導などにたずさわり、全国大会５連続出場、母校のインターハイ出場などに貢献。地区内の仲間を集め、クラブ選手権、国体の予選などに参加しながら、県内の審判員も務めました。岩手マスターズチームとして、代々木シニア交歓大会など全国のシニア世代の大会に現役選手として参加。その活躍する姿は、岩手県だけでなく、全国のシニアバスケット愛好者の目標となる存在。現役選手として参加するため奥州市の体育館で毎週欠かさず練習しています。

今回の受賞の「顕彰対象区分」は、当該スポーツを長年にわたり、実践している個人またはグループです。油井さんの受賞で、シニアバスケットボールの愛好者の先輩として３人目の快挙となります。

最後に、油井さんは、バスケットボールだけでなく、「組ひも・らくがき・二人展」を開催するなど多趣味、さらに奥様とご一緒に長年に渡り世界中の海外スキー、登山などを実践する愛妻家でもあります。そして、「『アンダンテ　カンタービレ（歩くような速さで、歌うように)』　走り過ぎてきた自分の生きざまを振り返り、スピードを緩めて、残り少ない人生を謳歌しようと考えている」と語っています。

「日本スポーツグランプリ」受賞は、バスケットボールを続けている全国のシニアの仲間にとってもこれ以上の喜びはありません、おめでとうございます、油井さん。

高校籠球ふるさと記（福井県編）

［事務局］

福井県で本格的にバスケットが導入されたのは戦前の1930年代で、その中心的人物が金井幸一。東京高等師範を卒業後、福井女子師範に赴任、バスケットの指導を始めた。戦後の1946年には協会を設立、会長に前田栄雄、理事長に竹前友次郎（東京文理大卒、福井師範教授、長野県出身）が就任、実務面は金井幸一が取り仕切る形でスタートした。練習するコート探しや、ボールやシューズも十分に調達できない中ではあったが、徐々に愛好者が増え、男子では福井第一（後の藤島）、福井光琳、若狭、福井商業、女子では丹生等の高校が頭角を現してきた。このような歴史と伝統を誇る福井県の高校バスケットであるが、本誌では1948年（昭和23年）から1988年（昭和63年）迄を対象に、その間、県内で活躍した高校や選手、コーチ・指導者、更には当時の協会関係者にも焦点を当て、福井県の高校バスケット界を通観してみた。

内容的には福井県バスケットボール協会創立50周年記念誌の他、客観的な資料に依拠し、まとめたつもりであるが、抜けや思い違いがあるかもしれない点、読者の皆様からのご指摘をお待ちしたい。（なお、個人名は敬称略、女性は旧姓、選手の卒業校名の後の数字は西暦卒年、学校名は略称）

先ずは、男子であるが、大きくは４つの期間に分けることが出来る。

第一期（1948 年ー57 年）

前半は若狭、後半は藤島。インターハイには若狭が７回、藤島が３回、出場している。

この時期、活躍した選手では、下間（旧姓：寺島-若狭 51－早稲田大－東京海上－日本協会常務理事）、仲村（若狭－日体大－福井大教授－県理事長）、魚住（若狭 55－日大－日本鋼管）、山本（若狭 58－日大－三井生命）らがいる。

第二期（1958 年ー68 年）

若狭、藤島に加え、福井商業が台頭、インターハイには福井商業が５回、若狭、藤島が各３回、鯖江が１回、出場している。

この時期の著名選手としては、山本昌彦（小浜水産 63－日大－住友金属：入社と同時にナショナルチーム入り、ユニバーシアード東京大会、アジア選手権大会に出場）がいる。

この時期、活躍した選手では、杉谷（若狭 60－日大－住友金属）、田中（若狭 61－日大）、大島（藤島 61－京大）、高野（高志 64－順天堂大）、渡辺（小浜水産 67－日大－福井県教員）、武田（敦賀 68－東京経済大）、安藤（藤島 69－芝浦工大）、梅田（武生 69－青学大）らがいる。

第三期（1969 年ー78 年）

北陸の台頭が目立ち、これに福井商業、藤島が続いている。インターハイには、北陸が７回（70，71 年にベスト８）、福井商業が２回、藤島が１回、出場している。ウィンターカップには 73 年に北陸が出場している。

この時期、活躍した選手では、安藤（藤島 70－芝浦工大）、土井（藤島 70－東京農大）、国友（若狭 70－大商大－日本鋼管）、柏（大野 71－拓殖大）、阿古（北陸 72－大体大）、山本（北陸 72－大体大）、堀川（福井商業 74－大商大）、斉藤（北陸 74－大体大）、内山（高志 76－筑波大－埼玉大助教授－国士館大教授－筑波大教授－同大学女子部ヘッドコーチ）、長谷川（北陸 78－筑波大－福井県協会理事）らがいる。

第四期（1979 年ー88 年）

県外からの有力中学生の加入もあり、北陸が圧倒的な強さを誇り、インターハイに 10 年連続出場し、82 年にベスト４、86 年にベスト８、そして 88 年には優勝と輝かしい戦績を残している。ウィンターカップには 80 年から 88 年（３、12 月）まで連続して 10 回、北陸が出場、83 年、86 年、87 年、88 年（３、12 月）に準優勝、85 年にはベスト８の戦績を残している。又、北陸は、この世代から全日本レベルの多くの指導者を輩出しているのも特徴。

この時期の著名選手としては、坂野孝則（北陸 82－日大－日本鉱業：アジアジュニア選手権（82）、ユニバーシアード（85）、アジア選手権（89）、日本代表）がいる。

県外出身の選手では、松田卓恵（大阪府出身：北陸 87－筑波大－トヨタ自動車：ユニバーシアード（91）日本代表）、佐古賢一（神奈川県出身:北陸 89－中央大－イスズ自動車：アジアジュニア選手権（89）、ユニバーシアード（95）、アジア選手権（91、93）アジア大会（94）日本代表）、塩屋清文（山口県出身:北陸 89－日大－東芝他：アジアジュニア選手権（89）、ユニバーシアード（91）、アジア選手権（93、95）、脇　将典（千葉県出身：北陸 89－専修大－トヨタ：ユニバーシアード（95））がいる。

この時期、活躍した選手では、武長（北陸 80－日大）、西（北陸 81－日大）、山腰（北陸 81－中央大－日立本社）、林（北陸 82－日体大－足羽高教諭・コーチ監督，Ｕ１８女子日本代表Ａコーチ）、塩谷（北陸 83－専修大）、富本（北陸 84－日大）、城野（北陸 84－拓殖大）、池田（北陸 86－日大）、中尾（北陸 86－日体大）、西川（北陸 87－専修大）、大林（北陸 87－国士館大）、亀岡（北陸 88－早稲田大－日立本社）、栗本（北陸 88－国士館大）、星（北陸 89－大東文化大）、脇（北陸８9－専修大）、山田（北陸 89－筑波大）、重野（北陸 89－順天堂大－北陸高校アシスタントコーチ）らがいる。県外出身では久井（兵庫県出身：北陸 84－日大－北陸高教諭・監督，Ｕ１８日本代表ヘッドコーチ）、東野（石川県出身：北陸 89－早稲田大－日本男子アシスタントコーチ・日本協会理事・技術委員長）らがいる。

次に女子であるが、大きくは４つの期間に分けることが出来る。

第一期（1948 年ー58 年）

前半は、丹生、後半は鯖江と武生が競い合い、インターハイには鯖江が４回、丹生が２回、武生が２回、三国、大野、藤島が各１回出場している。

第二期（1959 年ー71 年）

高志が圧倒的な強さを誇っていた。その中でも 68 年の福井国体での優勝が光っているが、インターハイにも 11 回出場し、67 年にベスト４、68、69 年と続けてベスト８といった輝かしい戦績も残し、71 年のウィンターカップにも出場している。あと武生がインターハイに３回出場している。

この時期、活躍した選手では、大谷（高志 62－日女体短大）、西川（高志 62－日体大）、川島（高志 62－東女体大）、尾竹（高志 64－日体大）、多田元（藤島 64－日体大）、勝本（若狭 66－日女体大）、田島（高志 66－日女体大）、天谷（高志 67－日女体大）、山田（高志 67－日女体大）、三上（高志 68－日本通運）、尾崎（高志 68－日女体大）、生野、田辺、山田、柳本、山本、橋本、大井（いずれも高志 69）、渡辺（高志 70－大体大）、酒井（高志 72－市邨学園短大）らがいる。

ここでは、高志の福井国体での優勝に至るまでの経緯について少し触れておきたい。

選手の頑張りはもとより、そこからは協会関係者や指導者の苦労や熱い思いが伝わってくるからである。同校は、福井市にある県立高校であり、選手のリクルートは容易な事ではないが、国体開催を前に、関係者が地域の中学生の中から有望な選手を集める努力を行い、更には、京都の山城高校の名コーチとして実績があり、当時は大阪体育大の教授であった細川磐氏をコーチとして招聘、技術指導を仰ぎつつ、長谷川コーチが敢えて「鬼」に徹し、厳しく指導し、それにくじけそうになった生徒を藪監督が精神面で支えるといった青春ドラマがそこにはあった。

第三期（1972 年ー79 年）

前半は藤島、大野、北陸の競い合い、後半は坂井農業が強さを誇っていた。インターハイには坂井農業が４回、藤島、大野、北陸、羽水が各１回出場している。ウィンターカップには坂井農業が 76、77 年に２回出場している。

この時期の著名選手としては、大島（現姓：中村）直子（坂井農業 78－大体大：３年次に第８回アジア選手権に日本代表で出場）がいる。

この時期、活躍した選手では、野村（大野 74－大体大）、古川（北陸 75－東女体大）、大西（北陸 76－日体大）、平野（坂井農業 78－大体大）、松山（坂井農業 79－東女体大），小藪（坂井農業 79－薫英女短大）、松村（坂井農業 79－薫英女短大）、竹内（鯖江 79－大体大）らがいる。

第四期（1980 年ー88 年）

仁愛と足羽が競い合う時代。インターハイには仁愛が５回、足羽が４回出場している。ウィンターカップには足羽が 82 年、88 年（３、12 月）に３回出場している。

この時期、活躍した選手では，貴田（鯖江 85－大体大）、山崎（鯖江－大体大）、多田（仁愛 88－ユニチカ山崎）、山本（足羽 89－三井生命）、中野（足羽 89－シャンソン）、伊藤（足羽 89－東女体大）大谷（足羽 89－武庫川女大：３年次インカレ４位、アシスト王）らがいる。

＜コーチ・指導者＞

・**鳥居　文雄**　若狭高校男子バスケットの黄金時代を築いた指導者。32 歳での早世が惜しまれる。

・**高山　昇**　48 年、県立第二高校（現　福井工業）に赴任、第 13 回インターハイの福井誘致に尽力。62 年に福井商業に転任、65 年、長身の荒井選手を擁してインターハイ出場、１回戦で敗退するも、秋の全日本総合に県として初出場。その後、68 年の福井国体では少年男子監督として混成チームをベスト８にまで進めた。73 年から 77 年まで県理事長、89 年から 92 年まで副会長を務めた。

・**藪　利治**（監督）　68 年の福井国体で高志高校を優勝に導いた。細川招聘コーチの厳しい指導でくじけそうになった選手を精神面や健康面でサポートした。

・**長谷川　信孝**（コーチ）　68 年の福井国体で高志高校を優勝に導いた。細川招聘コーチの厳しい指導の下、敢えて鬼コーチに徹し、「負けるチームを一つでも作っておいては国体に勝てない、勝つまで何度でもゲームを」ということで当時、絶対的な強さを誇っていた名古屋女子商業に何度も足を運んだエピソードの持ち主。　のちに県協会第 10 代理事長を務める。

・**津田　洋道**　北陸高校を 61 年に卒業、２年間、福井市役所に勤務の後、中京大に進学、67 年卒業後、すぐに北陸高校に教諭として就職、バスケット部監督に就任 68 年県大会初優勝、69 年インターハイ初出場、70 年、71 年インターハイで連続ベスト８、82 年インターハイで第３位、全国選抜で準優勝（その時の主将でガードの久井茂稔はその後母校コーチ）、86 年、88 年と全国選抜で準優勝、そして 88 年のインターハイで念願の初優勝と、その輝かしい戦績の立役者。自宅に部員を下宿させ、夫妻で生徒に細かく目配りし、選手としての育成に取り組んだ。

＜**協会関係者**＞

会長

・**前田栄雄　会長**　1946―49 年

・**金井幸一　理事長**　1947―48 年

・**佐々木信男理事長**　1949 年

前田栄雄：戦後の苦難の時期に協会の礎を築いた最大の功労者
物心両面で協会関係者を支援した。福井県の繊維産業のトップリーダー

・**長谷川政友会長**　1950―55 年

・**佐々木信男理事長**　1950―54 年

・**斎藤信一　理事長**　1955 年

長谷川政友：県協会が揺籃期から脱皮する苦難な時代を　物心両面で協会関係者を支援した。

・**佐々木徳右衛門会長**　1956―68 年

・**斎藤信一　理事長**　1956―68 年

佐々木徳右衛門：福井中学、福井高工と選手として活躍。福井高工の黄金時代を築いた。56 年から第３代会長として、13 年間、斉藤理事長との名コンビで 68 年の福井国体の成功他、大きな功績を遺した。

・**坪川健一　会長**　　1969―79 年
　・**藪　利治　理事長**　　1969―70 年
　・**松下正雄　理事長**　　1971―72 年
　・**高山　昇　理事長**　　1973―77 年
　・**江口一雄　理事長**　　1978―79 年
坪川健一：福井中学－第四高等学校でバスケット選手として活躍、協会としては安定期ともいえる 11 年間、大所高所より協会を見守った。

・**友田善治　会長**　　1980―94 年
　・**仲村憲三　理事長**　　1980―81 年
　・**長谷川信孝理事長**　　1982―83 年
　・**竹浪行男　理事長**　　1984―85 年
　・**坂東邦彦　理事長**　　1986―88 年
友田　善治：福井師範時代にバスケットを始め、明治神宮大会等で活躍、戦後は金井幸一らと協会設立に貢献、以降５０年間にわたり、協会の発展に心血を注いだ。総務部長希代、協会を組織化し、自らその中で有機的に活動して６８年の福井国体で高志高校を優勝に導いた。
当時、大阪体育大の教授だった名将細川磐を県委嘱の特別強化コーチとして招き入れた。因みに細川は京都・福井を特急白鳥で往復していたので、地元メディアでは「白鳥の人」と呼ばれていた。

その他役員
・**松下　正雄**　日本体育専門学校（現　日体大）を卒業後、48 年から４年間、第一高校（現藤島）、乾徳高校（現　福井商業）でバスケット部を指導、その後、協会の審判部長、強化部長としてその運営に尽力。理事長、副会長を経て第６代会長に就任。

・**内山　智江**：　藤島高校 64 年卒、日体大に進学、女子学連委員長や山梨学院講師を経て、福井に戻り、協会職員・役員として地道に活動、その後、99 年４月から２年間、全国で初めて女子県協会理事長を務めた。

・**清水（現姓：高島）さつき**：　富山県立泊高校 64 年卒、日体大に進学、67 年のユニバーシアード東京大会日本代表。卒業後、福井県教員になり、同県教員チームの主力メンバーとして活躍後、県協会役員を務めた。

【編集後記】
今回、福井県の高校バスケットボールの歴史を通観するに際し、資料の提供や情報の整理に当たり、福井県バスケットボール協会様には、多大なご協力を賜った。誌面を借りて謝意を表したい。

高校籠球ふるさと記（岩手県編）

［事務局］

岩手県で本格的にバスケットが導入されたのは戦前で、1924年頃から近隣他県に比べ、低調な球技、特にバスケットの振興を図ろうと師範学校や女学校の教諭が協議を重ねていた。27年に日体大を卒業した田村光政が遠野高女、小原亮吉が花巻高女に教諭として赴任し、県の球技振興策に沿って正しいバスケットの普及に乗り出した。28年には日体大卒業の新進気鋭の体育教諭が赴任先で、新たに検討された体育内容を実践した。バスケットでは新進気鋭の教諭が女子校に多く赴任したこともあって､その普及進歩は男子校より早く、すでに対抗試合が始まっていた。31年には遅れていた男子校もリーグ戦を行うまでになった。38年頃からはバスケットの技術研究や先達の指導で徐々に技術面でのレベルアップが図られていき、40年には旧制盛岡中学が県代表で明治神宮大会に初出場、42年には旧制岩手女子師範が同大会に出場した。

以上が戦前の動向であるが、戦後の45年には旧制盛岡中学の篭球部出身者が主唱して籃契会が結成され、それに続き同好の士を募り、岩手県篭球協会が設立された。48年には東北バスケットボール選手権大会で旧制盛岡高女が優勝したが、その蔭には指導者として本宿尚の存在があった。50年には岩手県バスケットボール協会と改称し、新たなスタートが切られた。

このような歴史と伝統を誇る岩手県の高校バスケットであるが、本誌では1948年（昭和23）から1988年（昭和63）迄を対象に、その間、県内で活躍した高校や選手、コーチ・指導者、更には当時の協会関係者にも焦点を当て、岩手県の高校バスケット界を通観してみた。内容的には岩手県バスケットボール協会創立50年周年記念事業の一環として発刊の記念誌「籠輪」の他、客観的な資料に依拠し、まとめたつもりであるが、抜けや思い違いがあるかもしれない点、読者の皆様からのご指摘をお待ちしたい。（なお、個人名は敬称略、女性は旧姓、選手の卒業校名の後の数字は西暦卒年、学校名は略称）

先ずは、男子であるが、大きくは４つの期間に分けることが出来る。

第一期（1948 年ー59 年）

盛岡一の強さが目立ち、それに水沢と一関一，宮古が次いでいる。インターハイには盛岡一が８回，水沢が２回、一関一と宮古がそれぞれ１回ずつ出場している。53 年の新潟インターハイに出場の水沢が準々決勝で強豪の三条高校に１点差で惜敗したが、ベスト８にまで進出したのが光っている。

この時期の著名選手としては、佐々木義郎（宮古 49－早稲田大－三井生命：第二回アジア大会に日本代表として出場）がいる。

この時期、活躍した選手では、岩淵（水沢 54－東京教育大)、油井（水沢 54：卒業後、母校のアシスタントコーチとしても活躍。県ミニバス連盟理事長や県協会常任理事も務める)、五日市（盛岡商 60－芝浦工大）らがいる。

第二期（1960 年ー71 年）

盛岡工業が圧倒的な強さを誇り、インターハイには、水沢が出場の 64 年を除き、連続 11 回出場している。

東北高校選手権では 61 年に盛岡工業が、62 年には水沢が優勝を飾っている。

この時期の著名選手としては、三浦真造（水沢 67－東京教育大－八幡製鐵：日本リーグ新人王）がいる。

この時期、活躍した選手では、桜野（釜石 61－専修大）、高橋（盛岡商 65－日大－トヨタ自工）、吉田（花巻北 66－東京教育大－熊谷組コーチ）、鈴木（水沢 70－東京教育大）、小川（釜石南 70－法政大）、鈴木（盛岡工 71－日体大）、山内（宮古 71－国士館大）、鈴木（黒沢尻北 71－芝浦工大）、大日向（釜石南 72－東京経済大）久居（一関一 72－東京学芸大）らがいる。

第三期（1972 年ー82 年）

盛岡工業、一関一他、盛岡一, 水沢、福岡, 宮古の群雄割拠時代。インターハイには、盛岡工が４回、一関一が３回、水沢、盛岡一、福岡、宮古が各１回出場している。

この時期の著名選手としては、吉田勇治（盛岡工 77－日大－日本鉱業:日大時代に主将として活躍、その後、コーチとしても指導）がいる。

この時期に活躍した選手では、小畑（一関一 75－立教大）、新沼（盛岡一 81－立教大）、清川（盛岡三 82－筑波大）、菅原（一関一 83－拓殖大－関修紅高校－岩手県常任理事）らがいる。

第四期（1983 年ー88 年）

盛岡工業が圧倒的な強さを誇り、インターハイには、雫石が出場の 86 年を除き、連続５回出場している。

この時期、活躍した選手では、佐々木（一関一 86－明治大）、折舘（盛岡南 87－日体大－岩手県教員－県副理事長）、大内（盛岡工 87－日大）、三浦（一関一 88－東京学芸大）、菅原（一関一 89－順天堂大）らがいる。

次に女子であるが、大きくは５つの期間に分けることが出来る。

第一期（1948 年ー52 年）

盛岡二が圧倒的な強さを誇っていた。戦後３回目、48 年の東北選手権で優勝を飾り（盛岡高女）、48 年から 52 年まで、５年連続インターハイに出場、48 年、51 年のインターハイでベスト８まで進出している。この時期、活躍した選手では、48 年東北選手権で優勝した時の小池、関口、荒川、田口、佐々木他、１年生に玉置容子がいた。玉置は卒業後、福島県の強豪チームである北芝電機に就職し、その後の同チームの全国優勝の原動力になった。

第二期（1953 年ー61 年）

前半の 56 年までは盛岡市立、宮古、岩手女子、水沢が競い合っていたが、57 年以降 61 年までは盛岡市立が強く、５年連続県大会で優勝。61 年には東北選手権で優勝している。インターハイには、盛岡市立が６回、宮古、岩手女子，水沢がそれぞれ１回出場してい

る。
この時期、活躍した選手では、名久井（岩手女子－北芝電機)、川村（盛岡市立－北芝電機)、野崎（盛岡市立－北芝電機)、北田（盛岡市立－北芝電機)、玉置（盛岡二－北芝電機)、藤田（盛岡市立－日立那珂)，高橋（水沢 54－東芝)、関川（岩手女子 61－北芝電機)、淡谷（一関二 62－大妻女子大）らがいる。

第三期（1962 年ー68 年）
岩手女子が圧倒的な強さを誇り、インターハイには、盛岡市立が出場の 65 年を除き、連続６回出場している。
この時期、活躍した選手では，玉置久子（岩手女子－三井生命)、松井（岩手女子－日立那珂)、葛（岩手女子－日立那珂)、熊谷（盛岡市立 63－杉野女短大)、
坂本（盛岡白百合 63－東女体大)、小山（盛岡白百合 65－日女体大)、出井（盛岡白百合 66－杉野女子大）らがいる。

第四期（1969 年ー79 年）
群雄割拠の時代。インターハイには一関二が 69、70 年、盛岡四が 72、74 年と各２回出場、広田水産が 76、77、78 年と３年連続出場している。あとは水沢が 71 年、盛岡二が 73 年、岩手女子が 75 年、黒沢尻南が 79 年と　各１回出場している。
この時期、活躍した選手では，瀬川（盛岡白百合 71－東女体大)、石川（盛岡市立 76－東女体大)、畠山（広田水産 77－杉野女子大)、寺沢（広田水産 78－共同石油)、葛巻（遠野 78－日女体大)、渋谷（一関修紅 79－杉野女子大)、上野（盛岡市立 79－東女体大)、工藤（盛岡白百合 80－東女体大）らがいる。

第五期（1980 年ー88 年）
盛岡市立、盛岡白百合と水沢の競合時代。インターハイには盛岡市立が 80、81、84 年の３回、盛岡白百合が 82、83、85、88 年の４回、水沢が 86、87 年の２回出場している。
この時期、活躍した選手では，工藤（盛岡白百合 81－東女体大)、大久保（盛岡白百合 82－東女体大)、菅原（一関二 82－日女体大)、加藤（盛岡市立 83－日女体大)、小田中（盛岡白百合 84－東女体大)、猪俣（釜石南 86－日女体大)、小野寺（水沢 87－日女体大)、金沢（盛岡南 87－日女体大)、金子（宮古 87－日女体大)、池城（宮古 88－日女体大)、平良（宮古 88－日女体大)、竹本（盛岡市立 88－日女体大)、大西（盛岡二 89－日女体大)，百々（盛岡白百合 89－日女体大)、小田島（盛岡白百合 89－東女体大）らがいる。

＜**コーチ・指導者**＞
・**本宿　尚**　　戦後 48 年、盛岡高等女学校を東北選手権で優勝させた影の立役者。仙台医専出身の医師で盛岡二高（旧盛岡高女）や盛岡高校（のちの盛岡一高）を指導し、競技力の向上に多大な貢献をした。非常な勉強家でバスケット界でもトップの情報を持ち、それを基に高校を指導した。後述の**小原勤**は旧制盛岡中学時代にその指導を受けた。福島県協会長、東北協会長を歴任。

・**石川　廣**　（旧姓：土屋）　　東京教育大先輩の及川信一の紹介で、現役時代に水沢のコーチに就任、その後、地元名家の養子となり、石川と改姓。
水沢に帰郷する際には、チームメイトや後輩（その中に当時の日本ナショナルチームのエースセンターの糸山隆司や従野明宏もいた）を同伴、生徒の指導を手伝ってもらった。水沢高校教員として男子チームを 52、53 年の両年、連続してインターハイに出場させ、53 年の新潟インターハイではベスト８に進出させた。62 年の東北選手権大会で優勝、同年開催の岡山国体では第５位に導いた名将。83 年から 94 年まで県協会副会長を歴任。

・**小原　勤**　　旧制盛岡中学時代に本宿　尚の指導を受けた。コーチクリニックがあると出かけて行き、技術の習得と共に指導理念の確立に努めた。主に、盛岡工業を指導し、60 年以降の同校の黄金時代を築き上げた立役者であり、名将。75 年から 82 年まで県協会理事長、83 年からは県副会長を歴任。

・**山口　徳行**　盛岡工業卒業後、57 年より母校を指導、**小原**と同様、60 年以降の同校の黄金時代を築き上げた立役者である。

・**多橋　紘一**　高校生の強化について県外交流の必要性を説き、自らも実践、競技力向上に大きく貢献した。

・**芳賀　信之**　**多橋**の遺志を受け継ぎ、後述の**金子**と共に他県と対等に戦える戦力を育成、ミニ・中学との連携と共に一貫した強化システムを具体的に構築。盛岡白百合を指導し、全国大会に 10 回以上出場させた名将。85 年から 94 年まで県協会副理事長を歴任。

・**金子　力**　　上述の**芳賀**と共に県の一貫した強化システムの具体的な構築に貢献。水沢、広田水産、盛岡工業、水沢と転じ、主に女子部門で**芳賀**としのぎを削り、名勝負を繰り返した名将。

・**潮田　祥一**　盛岡市立のコーチとして、岩手県の高校女子を牽引し、そのレベルアップに貢献するとともに、県協会の理事長を務め、協会組織の強化に貢献した。また、自らホイッスルを持ち、若手審判員の指導を行った。

・**佐藤　儀兵衛**　岩手女子のコーチとして、**潮田**の率いる盛岡市立と激戦を繰り返し、インターハイ出場の常連校として県女子のレベルアップに貢献した。また、県協会理事長、副理事長として、ライバルの潮田とともに協会を支えた。

＜普及・強化について＞

普及については、61 年に東京教育大から笠原成元、68 年に日大から細島繁、74 年に日体大から稲垣安二といった当時の日本を代表する指導者を招き、技術講習会を開催し、加えて 75、78 年には秋他県の女子強豪チームの指導者を招き、指導者講習会も開催することで県協会としてバスケットボールの普及・強化に努めた。

＜協会関係者＞
・吉田文一郎会長
　・菊池慶男　　理事長　1948―49 年
・新田信寛　会長
　・西村修一郎　理事長　1950―51 年
・菊池慶一郎会長
　・西村修一郎　理事長　1952―53 年
・鈴木清一　会長
　・佐藤儀兵衛　理事長　1954―58 年
・芳賀徳松　会長
　・佐藤儀兵衛　理事長　1959―70 年
・芳賀徳松　会長
　・潮田　祥一　理事長　1971―74 年
・芳賀徳松　会長
　・小原　勤　　理事長　1975―78 年
・赤坂俊夫　会長
　・小原　勤　　理事長　1979―82 年
・赤坂俊夫　会長
　・黒川　国児　理事長　1983―88 年

【編集後記】
　今回、岩手県の高校バスケットボールの歴史を通観するに際し、資料の提供や情報の整理に当たり、水沢高校ＯＢの油井康様には多大なご協力を賜った。誌面を借りて謝意を表したい。

訃　　報

従野　明宏　氏　　令和３年８月１８日　　享年 ８８

長年にわたり、振興会会員として、日本バスケットボール界発展のため多大のご尽力を賜りました。
ここに、謹んで哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

従野先生を偲んで

小澤　正博

従野明宏さんの訃報に接し、驚きとともにまた一人バスケットボールをこよなく愛された方が逝去されたことへのショックをぬぐい切れません。ここではいつも皆さん方が「従野先生」と呼んでおられたことに鑑み、先生のお人柄も踏まえての見出しとさせていただきます。

先生は昭和８年(1933)生まれで今年米寿を迎えられました。東京教育大学を卒業されてから学習院中高等科の教諭として活躍、当時高等科でバスケットボール部に入られた現麻生太郎大臣を教えたこともあります。

平成９年(1997)に中高等科の科長(校長先生)に昇格され、大変教育熱心な方で学習院の名誉教授の称号も持っておられます。

バスケットボールでは故吉井四郎さんの後輩で、吉井理論を踏まえながらのコーチングには定評がありました。

昭和 46 年(1971)、第一勧業銀行(以降第一勧銀)発足の際、副社長だった故山田光雄氏から要請されて、同行女子バスケットボール部に監督として携わられ、昭和 48 年(1973)の全日本総合選手権制覇に続き、昭和 49 年(1974)に女子日本リーグ優勝、昭和 55 年(1980)にも日本リーグ優勝を果たしています。

第一勧銀の監督を辞められてからも、日本代表チームの技術顧問や日本航空チームなど多くの女子チームから声を掛けられましたが、いつも「縁の下の力持ち」的存在で、表に出ることを嫌われ、近年になってそのことを話すと「私はそんな身分ではないので」と大変物静かな先生でした。

先生のバスケットは大変緻密で合理性に富んでいて、女子チームにとっては大いに参考になる練習方法を見出されていました。数ある日本リーグ女子チームが毎日午後から半日ほど練習していた時に、第一勧銀の練習は全て銀行の業務が終わってからの練習でした。その短い練習時間でも緻密で速いプレイを教えられ、その教えによって当時の第一勧銀チームがオールジャパンを制覇できたのです。

オールジャパンを制覇した際にお招きいただいた祝賀会で先生に練習時間のことを訊ねてみたら「実業団でやっている以上、業務後に練習するのは当たり前のこと、業務中に練習するくらいなら私は第一勧銀のコーチを辞めます」ときっぱり言われ、頭が上がらなかったことを思い出します。

たまたま私が現役審判だったころ、目黒区碑文谷にあった第一勧銀の体育館へ出向くと私より先輩であるにも関わらず、極めて丁重に扱っていただきましたが、これも先生の素晴らしいお人柄が自然にそうさせていると感じていた次第です。

振興会に入られてからも会合には必ず出席されておられましたが、ことバスケットボールの話になるといつも目を輝かされて技術論を話されていたことが懐かしいです。

コーチの分野では右に出る人がいないくらい勉強家で、常に基本を大切にされ、理論と合理性に富んだ手法は他の見本のようなものであった先生、折角の技術を後輩に残してはという誘いにも、「私はそんなに偉くないので」と遠慮されていた先生、女子日本代表が銀メダルに輝いたことの元締めは先生だったのではないかと思います。

コロナ禍がなく何時も通り振興会の会合が出来たなら、先生と今回の東京オリンピックで女子決勝まで勝ち進んだ日本代表の活躍について、ゆっくりとお話したいと思っていましたのに大変残念です。

尊敬する従野先生、ごゆっくりとお休みください。ご冥福を祈ります。

［振興会副会長］

さようなら　従野さん

羽佐田　恭正

当会・元副会長　従野明宏さんが令和３年８月 18 日にお亡くなりになりました。享年88。心からお悔やみ申し上げます。

従野さんは岡山県立朝日高校から、東京教育大学(現　筑波大学)体育学部健康学科に進まれ、日本代表選手の故糸山隆司とは同級で、４年生の時にオールジャパンで優勝されました。卒業した昭和 30 年(1955)に学習院高等科の教諭になられました。

学習院大学籠球部の男子の監督・コーチは卒業生に限られていましたので、昭和 30 年に大学女子のコーチに就任され、翌々年から監督で 36 年まで続けられました。その間、東京都女子学生の２部から１部に昇格の指揮を執られました。

また、本拠の高等科は 30 年から部長として平成 14 年(2002)まで勤められました。特筆すべきは昭和 40 年(1965)と 41 年に関東の代表として、長崎と秋田と２年続けてインターハイに出場出来たことです。平成９年(1997)から 14 年まで中等科・高等科の科長に就任、その間、3,200 人の卒業生を送り出されました。体育系からの科長は最初でその後も生まれていません。

昭和 40 年(1965)の日本勧業銀行時代から 58 年までの第一勧業銀行・女子、昭和 58 年(1983)から 62 年までは日本航空・女子のコーチも務められ、更に、ナショナルチームの監督・コーチも任命されました。

振興会に入会され、毎月の歴史部会に出席され、振興会全体の副会長も務められました。

最初の大学女子のコーチに始まって、女子の指導に専念されました。理路整然と説明され、大きな声を出したりなされないので、女性の指導は打って付けでした。

（振興会理事）

事務局だより

［事務局］

◇　**シニアバスケットボールチーム「シルバーキッズ」**

神戸のチーム「シルバーキッズ」が結成 20 周年をむかえ、記念誌を振興会事務局に送っていただきました。神戸を中心に関西のバスケットボールの経験者を集め活動しているチームです。代々木第二体育館で開催しているシニア交歓大会に参加している名門チームです。

◇　**油井さんがスポーツグランプリを受賞**

岩手シニアチーム代表の油井さんが第 16 回スポーツグランプリを受賞しました。新型コロナ感染の影響で三重国体の開催も中止、リモートでの表彰式の開催となったことは残念なことです。

◇　**男女バスケット代表の活躍についての感想**

「東京 2020 オリンピック」での男女バスケット代表の活躍についての感想を会員の皆さんにお願いしたところ、多数のご投稿をいただきありがとうございました。今回、事務局と編集部の責任で文章を掲載します。ご了承ください。

◇　**日本バスケットボール協会は三屋会長が続投**

日本バスケットボール協会（ＪＢＡ）は６月 27 日臨時評議員会を開き、９月に任期満了を迎える理事・役員について、三屋裕子会長（62）の続投を内定させたと発表した。９月の定期評議員会で正式に決まる。三屋氏は次が４期目で、任期は 2023 年９月まで

◇　**ＷＪＢＬの新体制発表**

６月にＷＪＢＬの新体制が発表になりました。会長は、映画監督で有名な河瀬直美さんです。新会長はバスケットボールの経験も豊富、女性理事も４名とこれからのＷＪＢＬの発展が期待されます。

◇　**会費納入のお願い**　　会費未納の方にお願いします。

振興会は会員の皆さんの会費によって運営されておりますので、早めの納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

振込み口座番号

ゆうちょ銀行　　００１００－３－３１６０３５
　　ＮＰＯ法人日本バスケットボール振興会

三菱ＵＦＪ銀行　　神保町支店　　普通預金口座　　１６８４７４３
　　特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

みずほ銀行　　丸の内中央支店　普通預金口座　　１００４６８７
　　特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

プラザ　こぼればなし

◇　東京 2020 オリンピックでの日本女子チームは低身長ながら、素早い動きと３Ｐシュートの得点で決勝に進むという快挙を得た。決勝戦の対アメリカ戦では日本の動きを封じられて得点が伸びなかっただけでなく、ペイントエリアにおいてアメリカの長身プレイヤーを防ぐことができず、まったく歯が立たなかった。世界の女子バスケットはますますプレイヤーの大型化が進み、低身長の日本は厳しいディフェンスを敷かれると攻撃の方法が少なくなり、得点も伸びにくくなる。これを打破するにはさらなる得点力アップと、４クォーターをすべて走り切れる体力も必要だろう。

◇　男子は八村が相手に抑えられたことがすべてではなかろうか。八村が複数の相手ディフェンスで抑えられたとき、八村以外の４人が素早くリングに向かって攻撃すれば、もっと得点が伸びるはずである。世界のバスケットは選手の大型化にともない、長身プレイヤーの３Ｐシュートが目立ち、どこのチームもオールラウンドプレイが発揮できないと立ち向かえない。
日本は上背だけで見ると、そんなに遜色ないのに得点力とスピードで劣って、１勝も挙げられず予選リーグで敗退した。ディフェンスにおいても相手３Ｐシューターには外角で密着ディフェンスし、抜かれても３Ｐは打たせない心構えが必要ではなかろうか。相手の３Ｐを２Ｐにさせるだけでも得点を２割は減らせるだろう。

◇　ＦＩＢＡは、東京 2020 オリンピックが終った８月９日付けで、バスケットボールの世界ランキングを発表した。日本は、銀メダルに輝いた女子が８位で２ランクアップ、男子は予選リーグを全敗したが 35 位と７ランクアップした。
アジアでの日本より上位のチームは、女子でオーストラリア３位、中国７位の２チーム、男子でオーストラリア３位、イラン 22 位、ニュージーランド 25 位、中国 28 位、韓国 29 位、フィリピン 31 位の６チームで、男子においてはまだまだ強化が必要である。

◇　日本協会は、銀メダルを獲得して一人 300 万円の報奨金を受ける女子代表選手 12 名に加え、選手を支えたスタッフ 12 名の合計 24 名に対して、一人 200 万円の報奨金を授与することを決めた。代表選手各人にとって合計 500 万円の報奨金は金メダルを獲得した時の額で、上背で劣る日本がバスケットボール史上初めての銀メダルを獲得したことへのビッグプレゼントとなる。この増額がスタッフにも授与されるという粋な取り計らいにＳＮＳでも多くの賛同が寄せられている。

◇　全国中学校体育大会は、８月 21 日に高崎アリーナであり、バスケットボール男子で新型コロナウイルスの影響を考慮した理由から準決勝に進出した全４校が辞退を申し出たため、異例の４校同時優勝となった。優勝したのは新潟市立白新中、八千代松陰中（千葉）、福岡市立西福岡中、神戸市立本山南中の４校。

ＮＰＯ法人
日本バスケットボール振興会
〒１０１―００５１
東京都千代田区神田神保町１－４０
　　豊明ビル　３０１号室
電話／ＦＡＸ（03）3219－9311
メール　contact@jbbs.jp

神田バスケットボール資料室
ルールブック　昭和８年から昭和３２年まで

昭和8～9年(1933～34年)

昭和9～10年(1934～35年)

昭和9～10年(1934～35年)

昭和10～11年(1935～36年)

昭和12～13年(1937～38年)

昭和14～15年(1934～35年)

籠球競技訓
（籠球新書）
昭和17年(1942年)

昭和21年(1946年)

昭和23～24年(1948～49年)

昭和24年(1949年)

昭和25年(1950年)

昭和26～27年(1951～52年)

昭和28～29年(1953～54年)

昭和30年(1955年)

昭和31年(1956年)

昭和32年(1957年)